

京都愛書会のこと

重久篤太郎

京都愛書会のことを語るには、まずその前身の明治史談会のことの一言しなければならない。昭和十年の夏、文芸春秋社ヨーロッパ特派員の仕事を終えて帰朝された間もない住谷悦治先生から有志の者が集まつて明治史談会という会合をもつから参加するように勧められた。史談会といつても、特に目的をかかげた組織がある訳ではなく、月一回ぐらゐの例会を開いて、明治文化に関する研究発表があり、その話題を中心にして座談に移るといった会合であった。その年の七月に高台寺一休庵でオ一回の例会を開き、出席者は五名。住谷悦治、絲屋雄潤氏のほか依田義賢氏がいたと思うが定かではない。ある例会は史談会に関心をもつていたF・M・トラウツ博士の好意で独乙文化研究所で催し、同

博士からシーボルト談を聞いた思い出がある。この会は少数の集りではあったが、とにかく楽しい会

合で、翌十一年八月には八瀬平八

で懇親会を開いている。このよう

に、明治史談会は一年半ほど継続して、発展的解消し京都愛書会が成立するようになった。

京都愛書会は、昭和十二年一

月京大樂友会館で発会式を行って、同年二月一日例会を開き、新村出

博士の講演があつた。出席者五十

余名の盛大な発会である。

会の活動は毎月定期的講演会を開き、時には資料の展示を行つたが、

発会後二カ月にして月刊誌「開化」

を創刊した。オ一卷一號九月、

オ二卷一號十一月（昭和十二年四月十七十三年十二月、通巻二十号）

であつた。編集の本拠は川端道一

方に置き、オ一卷になると海老沢有道氏が編集にあたり、絲屋雄潤氏は表面には出なかつたが、ペンネームで健筆を振つた。

愛書会は京都の異色ある文化團

本として、いわば明治文化研究会

の関西版としての活動を行つた。

また「開化」は会の機関誌として、

明治文化、郷土の近代化に関する

記事、文献目録などをかかげ、会

報欄には、例会をはじめとして会

の活動を記録している。ことに例

会講演の中でも郷土の関心をよん

だものには、西川百子氏らの「真

下飛泉の夕」、小林政治（天眠）氏

の「よしあし草同人の今昔」、田辺

朔郎博士の「疊水工事を語る」が

あつた。例会を重ねるうちに多種

多様の参会者を集めめたが、その中

では漱石の松山時代の教頭横地石

太郎、自由労働時代の先覚者羽

下飛泉の夕、小林政治（天眠）氏

の「よしあし草同人の今昔」、田辆

朔郎博士の「疊水工事を語る」が

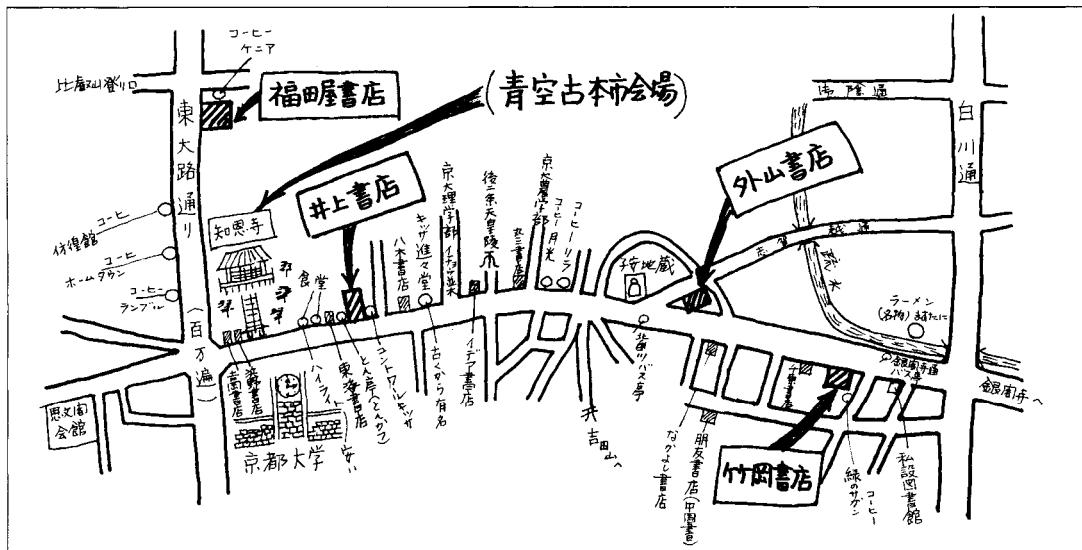
あつた。例会を重ねるうちに多種

多様の参会者を集めめたが、その中

では漱石の松山時代の教頭横地石

太郎、自由労働時代の

京都古書研究会員 一店と人 シリーズ 第一回「百万辯界隅」



ある竹岡書店、法律経済思想理工
学の専門店 新装開店に備へて奥
さんと準備に大奮闘、改修前の売
場を奥の方へ拡げ約二倍の広さ、
(約十八坪)スチール棚(大型90
cm巾)が中央二列と壁面四方に70
台が並び約二万冊の本が陳列しと
さながら資料室の様相を呈してい
る。同業者の目から見ても圧倒さ
れそうな迫力があり、愛書家藏書
家のお客様なら一日中どつかり腰
を落ちつけて古本屋を満喫出来る
店である、只今のところ拡張され
たばかりで資より量の感は否めな
いが、出来るだけ早

く質の方も充実し、
現在の専門分野はも
とより歴史関係も取
り揃えたいと意慾滿
々やるき充分、夢い
っぱい、忠郎さんは
長いサラリーマン



(10月10日 新装開店)

定休日 無し
営業時間 九時～八時

のボク(末子)の洋チャンの話にな
るとメロメロ)

在はナウクテニス、京都古書組合
野球部(ブックマン)の名ショート、
家族はお父さん74才現役と奥
さんと小3の長男小1の長女1才

今はナウクテニス、京都古書組合
野球部(ブックマン)の名ショート、
志賀越通の入口を入ったところに
小さい乍ら(約4坪)社会科学の専
問書をギッシリ、整然と並べてい
る清潔な感じの店が外山書店であ
る、店の奥は事務所になつていて

今は「外山書店古書目録第23号」
の発送でバイトの学生さんと準備
に忙しい、昭和51年9月の開店以
来目録販売を主として六年、もう
23号になるが、内容の充実は創刊
の頃から比べると雲泥の差、(創刊
24頁、最新号116頁)やればやれる
ものだと感じ入る。

昭和42年に中央大学に入るが、そ
の頃は学園紛争たけなわで授業は
殆んど行なわれず昼間から神田の
篠村書店でアルバイトに専念する、
半年程して店の上司三人が相次いで
独立等で罷めてしまい、店の中では
最古参の店員になる、彼の誠実

竹岡書店 竹岡忠郎(38才)

今出川通は銀閣寺の手前、正面

に大文字を見上げ隣に京大、周囲

は学者の巣、住むよし商売によ

し古本屋には願つてもない環境に

ある竹岡書店、法律経済思想理工

学の専門店 新装開店に備へて奥

さんと準備に大奮闘、改修前の売

場を奥の方へ拡げ約二倍の広さ、

(約十八坪)スチール棚(大型90

cm巾)が中央二列と壁面四方に70

台が並び約二万冊の本が陳列しと

さながら資料室の様相を呈してい

る。同業者の目から見ても圧倒さ

れそうな迫力があり、愛書家藏書

家のお客様なら一日中どつかり腰

を落ちつけて古本屋を満喫出来る

店である、只今のところ拡張され

たばかりで資より量の感は否めな

いが、出来るだけ早

く質の方も充実し、

現在の専門分野はも

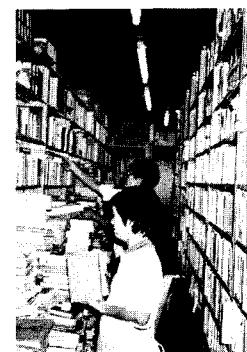
とより歴史関係も取

り揃えたいと意慾滿

々やるき充分、夢い

っぱい、忠郎さんは

長いサラリーマン



(念願かなった店舗拡張)

空古本市の実行委員長
として第一回より彼が采配

をふるっている、元々商売人が相
っているのだろう、又頼まれると何
人でも引受けける気の良さ、お客様
からの探求書等で自分の店にない

ものは他店へ問合せ電話をかけま
くるので有名。

（エンジニア）を続け
ていたが母親の他界、父の高齢などで家業を

継ぐことになる、しかし勉強熱心な彼は早々
と頭角を表わし今や業

界若手のリーダ格、青



（外山書店古書目録第23号の
発送準備で忙しい。）

（古書目録最新号発送準備完了 創刊号より第23号迄
(外山書店)

で謹勉な生格が見込まれて直に番頭格として店を任せられる、この頃から古本屋に魅力をもち一年後にはこんな面白い商売はないこれを見職にしよう」と決意、従つて大学を罷めることになるがその事にはなんら躊躇はなかった。

店での主な仕事は販売目録の作成及び倉庫の管理、仕入は主人が元気だった頃で市場へは行けなかつたがお客さんからの買入はよく行かせてもらつた。

八年間篠村書店での修業を終え、自信をつけて帰京した彼が開業の地と選んだのが学問の中心地である百万辺界隈の現在地である、営業を始めて東京と京都（地方）のハンディをつくづく痛感するのは地方においては諸官庁、民間研究機関の資料類が殆んど入手出来ないことがある。しかしクラシックは学術書は東京に劣らずもしくはそれ以上のが京都には豊富にある、京都ならではの利点も多い、目録発刊当所はなかなか利益が上



らす赤字が続いたが15号当りから父にも店番を手伝ってもらい仕入に専念出来るようになつてから内容の充実と共に収支も好転、最近では倉庫も整備され在庫も豊富になつた。

当面目録販売に全力投球だが店売

りの魅力も捨てがたく行々は大きな店を構え奥さんと店番をするのが夢、一人倍バイタリティのある彼のことだから夢では終らせないだろう、一世一代限り！完全燃焼が彼のモットー……

家族は御両親と大変愛の奥さん、おしゃまで可愛い純子ちゃん2才高校時代はラグビー部のキャプテン、京都古書組合野球部のライトでリーディングヒッター

百万遍学生街の真直中、向いは

京大店の並びは本屋、学生食堂、文具店、出版社、コピー屋その他学生相手の商店ばかり、京都の神田と云う形容がピッタリの処に位置する井上書店、丸太町通、今出川通の学生街の古書店によく見かける大きなガラス戸の嵌つたおちつきのある店構え、入口は開け放

されていて入りやすい。

場所柄学生向きの古書が殆んどで、この店の商品を見渡せばその折々の學生氣質が一目で判る、以前は各種専門書、大学の教科書純文学、評論と云つた難いものばかりであったが今では色取々のハウ

ツーものからマンガ迄巾広く置いている、客層は学生が大半だが絶えずお客様の出入がある。

この店はもと京大農学部前にあつたが昭和27年に現在地へ移る。

創業者のお父さんは今も第一戦で

将來は今の店舗をビルに改築したいと云ふが夢、時には親戚の大型店舗にするのが夢、時には親戚の宮大工さんへアルバイトなど頼まれる、頑丈な体と陰日向なく働く氣の良さが古書研の仲間にでも親しまれる好人物である。他の業会では28才と云えればベテランの域に近づく頃だが古書業会では30代40代は未々若手、50代60代からやつとベテランと云われ、70代と高齢

に頑張っている、仕入も厚く益々商売が樂しくなるのがこの業界、これからも種々なものを見聞きくじっくり自分の道を定めて欲しい。

家族は御両親との三人（独身）は交換会（業者の市会）だけでなく寄せ屋等へも頻繁に顔を出しながらでもやつてやろうと懲りて来たところ、又

最近京都の古書店から

水球の元国体選手（井上道夫さん）

殆んど姿を消した理工

学書にも積極的に力を入れようとする方面の勉強にも余念がない、

が出て来たところ、又

水球の元国体選手、現在高校の監督、大学でコーチ（毎年六月～九月迄）、古書組合野球部ではアンダースロー速球派のエース。

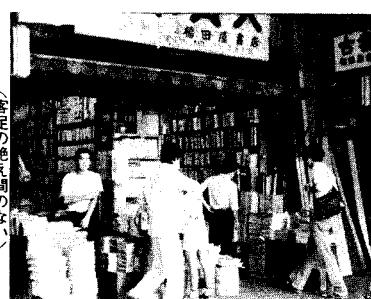
営業時間 十時～七時
定休日 無し



（水球の元国体選手
井上道夫さん）



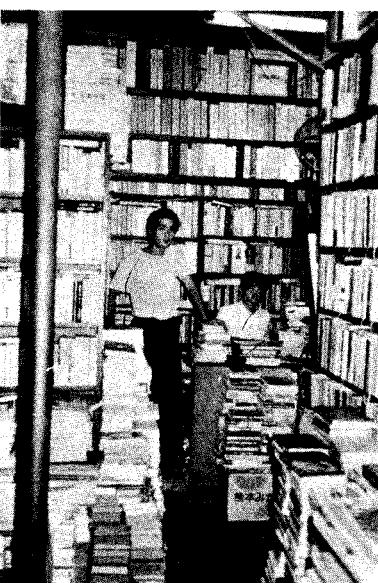
（井上書店
井上道夫の元国体選手）



（福田屋書店
小林隆雄（35才）
（客足の絶え間のない）

福田屋書店 小林隆雄（35才）
百万辺を北へ比叡山の登り口御陰通りの手前東側にカラフルに本を並べ客足の絶え間のない店が福田屋書店である、12坪程の店内は専門書から趣味書迄のあらゆる系統の本が詰り、入口附近は大衆向きの、売れ足の早いものが見やすく並べられている、百万辺界隈もこの辺になると学生街と云うイメー

ジと多少違ひ周囲は商店街、市場などで、後方は古くから閑静な住宅街として京大等の学者、文化人の住いが多く、徒歩で客層も広い。そういった環境にうまく合せるよう商品構成がなされている。御主人の福田さんはいわゆる本好きで有名な方で玄っぽい本から素っぽい本迄なんでもこなせ。業界では古書相場のエキスパートとして知られている、店の山崎さんも臨



(大衆路線大いに結構 各種専門書から
(マンガ迄売れるものならなんでも…))

にて自らの工房を開き陶芸家として道を歩むが、程なく義父の福田さんが病氣で倒れられ（今は元気になられ御活躍中）これを機に福田屋書店を継ぐことになる。

福田さんの営業方針である売れるものなら何んでも扱う、どの店よりも安くお客様の好みの変り身の早さにも対応し、買いややすい値段で売る。

最近どの小売業界でも専門店化のものなら何んでも扱う、どの店よりも安くお客様の好みの変り身の早さにも対応し、買いややすい値段で売る。

福田屋書店を継ぐことになる。福田さんの営業方針である売れるものなら何んでも扱う、どの店よりも安くお客様の好みの変り身の早さにも対応し、買いややすい値段で売る。

福田屋書店を継ぐことになる。

将来は早く三代目に継がせ黒姫で奥さんと茶碗を焼くことが夢、現在黒姫の工房は夏休みの避暑に使っている。

家族はお義父さんと奥さん、わんぱく盛りの男の子三人（少4歳3歳と二才）

古書組合野球部ではマネージャー兼二墨手で9番、技術はもう一

つだが大変まじめな選手、試合はもとより練習も皆勤、貴重な戦力

営業時間 九時～九時 定休日 無し

古書研究のお願い

分年も恒例になりました古本供養と春空古本市を10月30日(土)より5日間開催致します。

つきましては、皆様のご不用になりました本を御寄贈願えませんでどうか。お寄せ致きました本は法要を営んだ上、チャリティー・オークションを経て、他の愛書家の皆様の手に渡り、再び息を吹き返します。また、オークションの手構えず、お客様の求められるものなら専門書からマンガ迄、大

衆路線大いに結構、商品の種類を狭くするか売上げが落ちると云う考え方方が彼と共に鳴して今は楽しく古本屋の道筋。

この店は特に映画、演劇、相撲、野球等の明治大正昭和初頃の資料や、明治ものと云われる文学、社会科学関係の古書、資料類を京都で奥さんと茶碗を焼くことが夢、現在黒姫の工房は夏休みの避暑に使っている。

家族はお義父さんと奥さん、わんぱく盛りの男の子三人（少4歳3歳と二才）

近世京都の本屋

(十四)

宗政五十緒

なつた。村上家は淨徳の時は浄土宗であつて、この西福寺の大檀那であったのである。鞍馬口から二条玉屋町に移居した淨徳はここでまで続いた。代々、勘兵衛と称した。この店の近世前期の活動については冠賢一氏の「日蓮宗出版書における寛文期の意義」、「日蓮教学の諸問題」所収なる論文があつて詳しい調査の研究がなされて

いる。これによつて江戸前期の村上勘兵衛店について述べよう。村上家が出版を始めたのは、寛永元年（一六二四）四月に没した村上淨徳の代である。「平樂寺略景譜」に「伝二云フ、鞍馬口ノ旧宅ヲ以テ幻營和尚ニ投与シテ二条玉屋町ニ移転シ、經史記典（及び仏書、并ビ二国史ヲ以テ、悉リ活字印ヲ以テ板行シ、之ヲ四方ニ鬻）」と記載している。

前者は黄檗宗の図書として夙い頃の出版物で注目される。「伝通縁起」は仏教史の書として有名である。寛永十一年には医書の『医学正伝』、同十二年には『新編洛世全書』を刊行している。俳書の『はなひ草』も同十三年に上梓している。

京都に出て鞍馬口に住み、武士を務めたのである。鞍馬口の家は幻清がまだ生存していた承応元年に

夙く、長男の元信にあとを譲つて隠退した。宗信は深草瑞光寺の高僧、元政上人と極めて親しく交わり、この代になつて村上家は淨宗から日蓮宗に改宗するのである。彼は出家して深草瑞光寺の地に庵を結んでこれを平楽庵と名づけ、ここに住むようになる。

元政は京都の人で、父は毛利家に仕えた上級武士だが、もとは地下水の官人の由緒正しい家の出である。幕府の重臣で近江、彦根と藩主、井伊直孝に元政は少年時代から出仕したが、のち出家したのである。直孝の後を継いだ直澄は元政の姉、春光院の子であり、この人はのちに大老にまで昇つた人だから、元政は幕府大老の叔父といふことになる。また、元政の兄の日蓮宗妙顕寺の日豊上人の弟子となつた。これは元政が村上家に寓留して、元信の紹介によつてであるという。慶安元年（一六四八）、元政二十六歳の時であつた。村上家はやがて、元政との縁で日蓮宗の典籍を出版するようになり、これが基礎となつて更に、元禄頃の京都の地誌「京羽二重」には中野五郎左衛門とともに日蓮宗の本屋として世に広く知られるようになつた。

に始まつて、身延道の記 一二巻 寛文三年刊
元々唱和集 二巻 寛文三年刊
如來秘藏錄 一巻 寛文八年刊
釈氏二十四孝一巻 寛文十年刊
と、村上勘兵衛の店から出版される。
四代目は元信である。この時に、「大部ノ書ハ未だ板行セズ、コレヲ欲シテ力足ラズ、コレニ依リ、同業ノ輩三人ト共ニ四軒、志ヲ一致シ組ミテ仲間ヲ立」て、武村市兵衛昌常、山本平左衛門常知、八尾勘兵衛友春の三軒と組んで四軒仲間を結んだ。これが「法華宗門書堂」で、この四軒の仲間が寛文九・十年に亘つて日蓮・天台の典籍の板木を他肆から購入し、百五点の出版を開始するのである。こうした資本を出し合つて結社で出版活動をするという形態は「講」という形態で小グループでは行なわれているのであるが、百点以上の板木を一度に講入して活動開始するという大がかりな形態は當時としては極めて珍らしく、他に例を見かない。四軒仲間は寛文十二年に大書肆藤田庄左衛門了竹から額は今日の通貨になおせば凡そ八千万円、計算の仕方によつては二、三億円にもなるであろう。この宗門書堂はしかし、書堂の名で出版活動をしたのは寛文九・十年の二

年のみで、それ以後は法華宗門書堂の名は使われなくなる。時代が下り、寛保元年（一七四一）になつて村上勘兵衛が単独でこの名称をあらためて使うことになる。

村上勘兵衛は明治に至つても盛んに日蓮宗の図書を出版しており、この店の明治十三年の発売目録には二百一十七点の仏書が掲載されている。しかし、それらのうちには村上の藏板ではなく、諸寺院の藏板の書が約四十五%で、かなり多い。常照講寺（鷹が峰）、妙覺寺、身延山・要法寺、瑞光寺・妙顕寺、善正寺・慧光寺・本教寺・長松堂・頂妙寺・東京日蓮宗大教院などの藏板である。村上はこれら日蓮宗諸寺院の所有している板木を一手で印刷し、販売を引受けている支配人であつたのである。その主なものを少し例にあげておこう。

祖書録内・録外	常照講寺
註法華經（日蓮著）	要法寺
草山集（元政）	瑞光寺
身延道の記（元政）	瑞光寺
草山和歌集（元政）	瑞光寺
龍華年譜（日慶著）	妙顕寺
教相攝鑑（日正著）	善正寺
法華經啓運抄（日澄著）	常照講寺
法華経要品	頂妙寺
法華経要品	瑞光寺元政版

が出版されている。万治二年（一六五九）八月十三日、三十七歳の元政が七十九歳の母に供して京都を発ち、身延山に詣る。その前年に没した元政の父、石井元好の遺骨を納めるためである。そのうち元政が名古屋で明人、陳元暉と会うくだりを左に掲げよう。

（八月）十五日、

（中略）

夜中ばかりに名古屋のゆかりの者に、門打ちたきて入る。皆、喜ばひて寝ずなりけり。
（夜戻張藩の町奉行で、元政の姉の夫、川澄平左衛門の家に到着した。）

村上勘兵衛はまた文学書も出版しており、元禄九年版の『書籍目録大全』によると、木下長嘯子の『舉白集』、下河辺長流編の『林葉累塵集』などの歌集や、『源氏物語』・『うつぼ物語』・『大和物語』などの物語も出版している。北村吟の『源氏物語湖月抄』は北村家の蔵板書だが村上が支配人ととなり、この店が販売を担当している。北村値段は六十冊で銀三枚(百一十九匁)である。『源氏物語』の注釈本『万水一露』は金二両。『源氏物語』の本文のみの板本は銀四十九匁である。

人となつて協力したことは人のところである。太政官の今知るところである。明治七年十月刊行の『京都新刊書目便覽』は村上勘兵衛の編集で、『御維新以来』と角書があり、この書は明治初期の京都の出版状況をうかがうためのすぐれた資料である。

人となつて協力したことは人のところである。太政官の今知るところである。明治七年十月刊行の『京都新刊書目便覽』は村上勘兵衛の編集で、『御維新以来』と角書があり、この書は明治初期の京都の出版状況をうかがうためのすぐれた資料である。

(一たび高標を仰ぎて素聞に懐ふ、
不才尤も愧づ。共に文を論ずるを、
従来四海皆兄弟、
何ぞ必ずしも今朝初めて君を見ん、
元贊と同じく金荔枝を題す。和
韵などもあれど、しげければ

(龍谷大學教授、文學博

詩とさし絵

—東西の伝統

スコット・ジョンソン

一九六〇年代、私がアメリカの多くの若い詩人に興味を抱くようになりました。六〇年代の半ばには同人雑誌や、時には詩人自身の自費出版による詩集の刊行が復活しました。

当然、本と雑誌が詩を発表する最も普通の形ではありました。けれども小数とはいうものの、ほとんど忘れられていた英詩出版の伝統が復活し始めたのです。それは、「ブロードサイド」と呼ばれ、大きな紙は、まちまちですが一枚の紙に一篇の詩が印刷されているものです。ブロードサイドの多くは写真や絵、或いは木版や石版画のさし絵が施され通例ごくわずかの部数しか印刷されませんでした。私は一九六〇年代半ばにこのブロードサイドを收集し、その出版

元やデザイナーを調べ始めました。今でもその頃集めたものを持っていますが、写真に出ているのはそのうちの一つで、有名な詩人ゲイリー・スナイダー氏の詩を載せた大型のブロードサイドです。この詩はカリフォルニアのアーハーン出版が手漉の紙に印刷し、さし絵はその詩のテーマである子供の石けり遊びを題材にしています。

紙の色と手ざわり、大胆なデザイン、刷り具合、レイアウト、詩のまわりの空白のとり方、こういったもの全てが私を虜にしました。今もなおそうです。しかし一九六〇年代当時はアメリカのブロードサイドを收集することが日本となんらかの関係を生み出そうとは夢にも思つていませんでした。

私は一九七五年に来日し最初の数ヶ月は目にするものすべてが素晴らしいと思いました。日本は私は、たいへん異国情趣あふれる魅惑的な国に見えました。とりわけ興味をそそられたのは、子供の頃読んだラフカディオ・ハーンの物語で出てくる古い日本の精神を反映しているようなものでした。

ある日偶然にも私は大書堂書店を見つけ、そこで日本にも木版印刷の本があることを知つてとても嬉しくなりました。西洋の博物館や本で日本人の描いた絵を見たことはありましたが、もちろん有名な浮世絵師達のことも少しは知つ

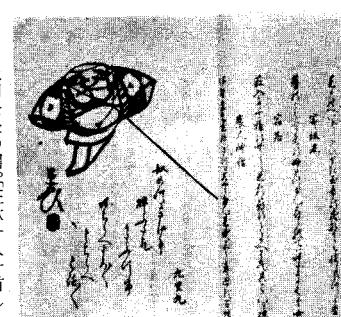
ておりましたが、日本にも、さし絵本の長い伝統があるなどとはまったく知らなかつたのです。

私は国貿や国芳の描いた小さな絵草子や、やがては数枚の「北斎漫画」を買い求めるようになります。私は本のデザインや、お祭り、日常生活、或いは幽霊や殺人鬼を描いたさし絵を入りに毎晩何時間も眺めていたものでした。私は日本の本にぞっこん惚れ込んだ、という次第でした。

そしてある日のこと、私は竹苞院、刷り具合、レイアウト、詩のまわりの空白のとり方、こういったもの全てが私を虜にしました。今もなおそうです。しかし一九六〇年代当時はアメリカのブロードサイドを收集することが日本となんらかの関係を生み出そうとは夢にも思つていませんでした。

私は一九七五年に来日し最初の数ヶ月は目にするものすべてが素晴らしいと思いました。日本は私は、たいへん異国情趣あふれる魅惑的な国に見えました。とりわけ興味をそそられたのは、子供の頃

(上田公長の図。狂歌一人十首)
(文化十年出版)



(上田公長の図。狂歌一人十首)
(文化十年出版)

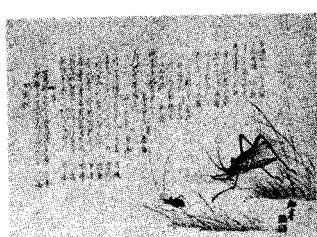
いうことを、私に根気よく説明して下さいました。

その本の中のいくつかの絵には詩も添えられていました。私は淡く落ち着いた風情のある日本の詩集を発見して本当に幸福でした。

本の中の頼山陽の詩に、木版に彫り込んだ印ではなく、本物の捺印を見つけて驚いたこともあります。

今お話しすることは随分昔のことですが、日本にも詩と絵を組み合わせた本があるのを知つたのを切

つけに、なお多くを知りたいという特に駆られました。関西の物四郎氏は当時まだ生きておられた。私はその本が一体どんなものか知りなくて、この本を持って店の中にはいりました。先代佐々木



京都紫野在住
関西大学文学部教授

(田中秋亭の図。俳句刷物。)
1854年。19cm×26cm

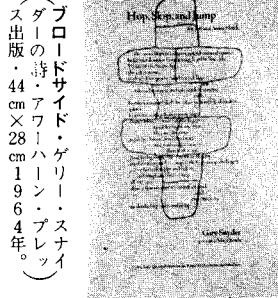
こういった類の本に加えて、私は俳句刷物にも心を奪われています。この紙の一枚一枚に印刷した刷物は私がアメリカで集めたブロードサイドと多くの共通点を持つています。つまり大きさは様々で、手漉の紙にはほんのわずか

手漉の紙にたいへん素朴なデザインが施され、時にはほんのわずかの詩にだけ、さし絵がつけられ、少ない部数だけ丁寧に印刷してあります。

私がアメリカの詩集を愛する気持はすぐさま英詩を載せたブロードサイドへと私を導き、そして、このブロードサイドの美しさを賞賛する心が間接的に、私に十九世紀の日本の上方の絵入り詩集と刷物の絵師と出版者に対する興味を抱かせることになったのです。

著作略歴

手漉の紙にたいへん素朴なデザインが施され、時にはほんのわずかの詩にだけ、さし絵がつけられ、少ない部数だけ丁寧に印刷してあります。



(ブロードサイド・ゲリー・スナイダーの詩・アワーハーン・ブレック)
ス出版・44cm×28cm 1964年。



第6回 古本まつり

古本供養と青空古本市!!

とき 10月30日(土)・31日(日)

11月1日(月)・2日(火)・3日(祝)

ところ 左京区百万遍知恩寺

(京大北門前)

秋も深まり、読書の好季節。読書週間、文化の日を迎えて、秋の恒例の行事となつてまいりました。京都古書研究会主催の「古本まつり」を本年も10月30日(土)より、11月3日(祝)まで5日間、百万遍知恩寺にて開催致すことになりました。とくに今年は、「古書鑑定コーナー」・「遊びの広場」・「学びの広場」を設け、皆様方に十分楽しんでいただける企画を多數用意しております。以下、各々の催しを簡単に説明いたします。

古本供養

10月30日 午前9時～10時
知恩寺本堂

皆様のご不用になつた本をご寄贈賜り、本堂にて念佛法養を行ないお供養いたします。また、知恩寺名物の大珠数回しも行ないますので、わざわざい寄せの上、多数ご参詣下さいますようお願い致します。

(尚、お詣りいただいた方には、青空古本市でお使いいただける金券を進呈いたします。)

古本セリ市

10月30・31日、11月3日
知恩寺鐘楼前・政会場

供養の終った本は「セリ市」で皆様の手に渡り、再び息を吹きかえします。チャリティーの純益金は「子供達を本好きに」の願いをこめて、公共図書館の児童図書購入費に寄贈させていただきます。また、古書研究会会員よりもたくさん出品致します。



↑百遍遍念佛大念珠くり

↑チャリティー古本セリ市



古本鑑定処

10月30日(土)・11月3日(日)
知恩寺内茶道

京都古書研究会加盟店が境内参道両側に古本市を開きます。「皆様に喜んでいただきたい」をモットーに掘り出しもの、超安値のものなど数万冊を用意。本年は「半端ものコーナー」を特設。全集や揃入費に寄贈させていただきます。

下、鐘の音と本堂から流れる読経を聞きながらの古本漁りは京都ならではの名物市です。

入札セール

10月30日正午・発表午後2時
入札は金曜中随時

皆様のご希望価格で本をお買いいただくコーナーです。全集・百科事典他優良品を多数出品いたします。入札いただいた中で最高価格の方に落札いたします。

古書セミナー

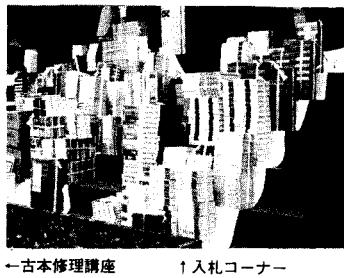
10月30日正午・発表午後2時
人札は金曜中随時

皆様と古本談議に花を咲かせたいと願っております。講師とテーマを御紹介致します。

○古本修理実演と実習
和本の部 谷書店 谷 隆夫
洋本の部 山崎書店 山崎純夫
○古書の売り方、買い方
臨川書店 久保田厚生
○マンガ本蒐集の手引
石川古本店 石川栄基

○版画蒐集指南
大書堂 中村俊一
○和本よもやま話
藤井文政堂 藤井敦
日時は次頁古本まつりスケジュールをご覧下さい。





古本修理講座

入札コーナー

立ち読みお断りコーナー
どうぞゆっくり「座って」
秋の一日のんびり読書をお楽
しみ下さい。いくら長時間見
ていただいても、いやな顔を
されたり、はつきをかけられ
たりする心配は一切ありません。
お子様向け、大人向け、御年
輩向けの気軽な本をどう
ぞお楽しみください。

立読みお断りコーナー
どうぞゆっくり「座って」
秋の一日のんびり読書をお楽
しみ下さい。いくら長時間見
ていただいても、いやな顔を
されたり、はつきをかけられ
たりする心配は一切ありません。
お子様向け、大人向け、御年
輩向けの気軽な本をどう
ぞお楽しみください。

古本まつりスケジュール

	30 (土)	31 (日)	1 (月)	2 (火)	3 (水)
9	古本供養	青空古本市開店	青空古本市開店	青空古本市開店	青空古本市開店
10	青空古本市開店				
11	古本修理講座	洋本修理講座			
12	セリ市	セリ市			
1	古書セミナー	古書セミナー	古書セミナー	古書セミナー	古書セミナー
2	古本の売り方買い方	マンガ蒐集の手引	版画蒐集指南	和本よもやま話	セリ市
3	閉店	閉店	閉店	閉店	4時閉店
4					
5					

天候などの都合により一部変更する事があります。

十一月中旬発行予定

☆ 目録御希望のお客様は、お早や目に最寄りの研究会加盟店へ御申し込み下さい。

(古本や往来定期講読のお客様は申し込み頂いた方のみ 無料で御送り致します。)

古書研究会 総合古書在庫目録 写真図録入 豪華版(B5版)

古書研究会結成五周年にあたり、全加盟店の古書在庫より選りすぐって、初めての「総合古書在庫目録」を編集致しました。この目録掲載品の展示会は致しませんので、まずは目録を御覧下さいませ。

中國之古典

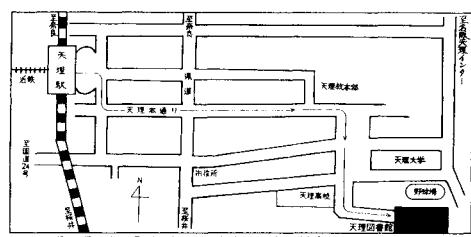
— 天理図書館善本叢書漢籍之部完結を記念して —
• 10月19日(火)~31日(日)・9時~4時
重文・重美など古典籍60余点を展示(入場無料)

天理図書館

天理駅下車東南2km 天理高校野球場南
TEL.07436-3-1511㈹ 6750番

『中国之古典』展の御案内

宋元版及び明版挿図本、或はわが国の丘南版、平安
鎌倉期の古絵本など指定品九点を含む古典籍六十点
を展示。展示品の多くは、中国との密接な交流を物語
る品々である。そして、いずれもわが国の学芸や文芸
に多大の影響を与えたもので、いわば日本人の古典で
もある。周囲の一衣帶水の関係に思いを致す一助とし
て、ご清聴をお願い申し上げる次第である。



編集後記

今年も古書研最大のビッグイベントの第6回古本まつりが近づいてきました。お客様に喜んでもらいたい、他にはないユニークな即売会にしたいと会員一同チエをしぱり、商品を集め、目下着々と準備しています。

今まで、あまり景気に左右されないと言わってきた古書業界にも不況の波はおし寄せ、古書相場も少々下降ぎみ。愛書家の皆様には絶好のチャンスです。期間は5日間たっぷりとあります。ぜひぜひ一度お出かけ下さい。長丁場、雨が降らないことを祈りつつ……催し物がかさなり、とつても忙しかった18号は、八木、松尾、中村、前田、赤尾の担当でした。

古書研究会よりのお願い

あなたの御手元に御用洛の書籍がございませんか。もし、すでに御用洛の書籍がありましたら古書研究会加盟店に御相談下さい。あなたの御用洛の書籍を必要とされている方がおられます。あらゆる専門分野の店が加盟しています古書研究会を御利用下さいます様、お願い申し上げます。

次号予定
「京古本や往来」第十九号は
五十八年一月十五日予定です。

赤尾照文堂

〒604
京都市中京区河原町通六角下北

支那監政史	曾仰	豊	大東出版	昭	七、〇〇〇
支那西域經綸史(上)	曾間	吾	東光書林	昭	二十、五〇〇
支那磨法起原考	飯島忠夫		第一書房	昭	五四、七〇〇
西周青銅器とその國家	松丸道雄		(東京大學人間文化研究科出版)	昭	四、二〇〇
養蚕の起源と古代絹	後藤末雄		昭	一六、七〇〇	
秦漢史の研究	栗原朋信		吉川弘文館	昭	三、〇〇〇
朝鮮學論考			(京大東洋史研究会)	昭	四八、八〇〇
朝鮮史研究	布目潮汐				
古代の朝鮮					
古代朝鮮の基本問題					
百洛史の研究	旗田・井上	学生社	昭	四九、四〇〇	
坂元義種		昭	四九、一〇〇		
完訳 三国遺事	梅原末治	高桐書院	昭	二、一〇〇	
金思燁訳		昭	二、一〇〇		
朝鮮古代の文化	梅原末治	国書刊行会	昭	四八、六〇〇	
朝鮮古代の墓制	梅原末治	高桐書院	昭	二三、四〇〇	
朝鮮考古学研究	藤田亮策	国書刊行会	昭	二三、四〇〇	
朝鮮の類似宗教	朝鮮總督府	高桐書院	昭	二三、四〇〇	
朝鮮殉教史	浦川和三郎	国書刊行会	昭	二三、四〇〇	
朝鮮の芸能	金	高桐書院	昭	二三、四〇〇	
朝鮮の芸能	兩基	岩崎美術	昭	二三、四〇〇	
朝鮮伝説集	崔仁鶴	日本放送出版協会	昭	二三、四〇〇	
韓國民間伝承と民話の研究	徐廷範	昭	二三、四〇〇		
朝鮮の民話	孫晋泰	岩崎美術	昭	二三、四〇〇	
上代日支交通史の研究	藤田元春	刀江	昭	二三、四〇〇	
日本交通史	大島延次郎	四海書房	昭	二三、四〇〇	
韓國古代史論	李基玉	泊勝美訳	学生社	昭	二三、四〇〇
韓國のシャーマニズム	金	岩崎美術	昭	二三、四〇〇	
基督教の影響	兩基	同朋社	昭	二三、四〇〇	
東漸史	徐廷範	昭	二三、四〇〇		
キリストン文化史	外山卯三郎	昭	二三、四〇〇		
リヴァーワーズ 原始文化伝説	金烈圭	昭	二三、四〇〇		
レギブリュ	岩生成一	刀江	昭	二三、四〇〇	
南洋日本町の研究	岩波書店	昭	二三、四〇〇		
南洋蛋學統の研究	海老沢有道	創文社	昭	二三、四〇〇	
南方原住民の歌謡	浜野修	原書房	昭	二三、四〇〇	
朝倉治彦他	三一書房	昭	一、七〇〇		
朝	昭	一、七〇〇			
中島悦次	昭	一、七〇〇			
松村武雄	昭	一、七〇〇			
神話伝説辞典	共立社	昭	二、〇〇〇		
神話	培風館	昭	二、〇〇〇		
神話原論	昭	二、〇〇〇			
宗教及び神話と環境	昭	二、〇〇〇			

日本神話の基礎的研究	青木紀元	風間昭45三,000
日本神話の基盤	日本武尊	塙書房昭49三,000
國体起源の神話学的研究	三谷栄一	塙岡文吉昭4六,000
日本伝説研究	藤間生大	堺元社創元社昭28三,000
古代日本人の世界觀	考古学会	吉川弘文館昭15四,000
鏡剣及玉の研究	城戸幡太郎	岩波昭5四,000
東洋口碑大全	上巻 巖谷小波	三笠昭13四,000
歐州の伝説	松村武雄	文淵堂大2七,000
日本のシャーマニズム	下巻 桜井徳太郎	大3八,000
迷信の話	沖野岩三郎	昭26三,000
天文	能田忠亮	恒星社英進社昭24三,000
星の散歩	草下英明	昭18二,000
上ににおける開闢と重富とその一家	ダヴィント	昭33一,000
天文歴史	渡辺敏夫	昭18五,000
祖先崇拜の研究	能田忠亮	日本出版協会昭24三,000
因幡の童子地蔵	吉田璋也	雄山閣昭51三,000
暦の本質とその改良	宇野圓空	昭24三,000
天文	前田 卓	渡辺敏夫昭18五,000
星の散歩	安間 清	八洲出版社昭19六,000
早物語覧之書	戸川安章	東峰出版昭37三,000
宗教の民族学	岩崎美術	昭42六,000
修験道と民俗	戸川安章	甲陽書房昭39四,000
日本民俗学辞典	中山太郎	昭51一,000
日本民俗事典	大塚民俗学会	昭51一,000
家庭辞書	弘文堂	昭54四,000
日本民俗学概説	郁文社	昭38五,000
日本民俗学研究	和歌森太郎	昭25三,000
芸術民俗学	竹内勝太郎	東海書房昭24五,000
生活と民俗	中山太郎	昭17二,000
日本常民生活絵引	三笠書房	昭17二,000
芸術によるもの	福村書店	昭24五,000
日本常民生活絵引	昭46,000	昭46,000
古地名と日本民族	前田吉之助	昭46,000
古地名と日本地名新研究	菱沼右一	昭46,000
アリヌの日本地名新研究	中情社	昭46,000
年中行事辞典	創元社	昭35四,000
年中行事	昭14六,000	昭35四,000
日本書紀研究	北野博美	昭37二,000
日本書紀通證	臨川書店	昭48三,000
日本書紀成立の研究	横田健一	昭48三,000
日本書紀の研究	友田吉之助	昭48三,000
日本書紀の研究	全3巻 小山二郎	昭53六,000
古代史籍集	吉川弘文館	昭30六,000
古代社会の構造	八木書店	昭47五,000
渡辺義通	伊藤書店	昭23六,000

御注文は各書店へ

1	(英)ニクソン・英國書物装幀の五百年	英、3000
2	(英)ミドルトン・英國書物装幀技術の歴史	英、3000
3	(英)コッカレル・製本術と書物の保管	大、3000
4	(英)マッケロード・文学術の為の書誌学入門	六、3000
5	(英)デ・ヴィネ・印刷術の発明	一八七六年の複刻 七、3000
6	(英)ダーベンポート・書物とその歴史と発達	六、3000
7	(英)ベネット編・書物と印刷	五、3000
8	(英)クラーク・書物の保管	40数名の著者を収録 五、3000
9	(英)ザ・ブックワーム(書物の虫)	全二冊 五、3000
10	書物界で著名な人々のエッセイ集	一八八八年 五、3000
11	(英)ユザンヌ・カリの絵画家	一八九三年 五、3000
12	(英)ロバート・倫敦の絵画家	一八九五年 五、3000
13	(英)カラーレー・書物の釣師	一八九五年 五、3000
14	(英)ローデン・パッハ・書物とせり手	一八九五年 五、3000
15	(英)フレンチャー・英國の蒐書家	一八九五年 五、3000
16	(英)アイアコーン・蒐書の喜び	一八九五年 五、3000
17	(英)ベータース編・蒐書と現代案内	一八九五年 五、3000
18	(英)クラウス・自伝(稀覯本探求談)	一八九二年 五、3000
19	(英)クラウス・焚書	一八九二年 五、3000
20	(英)フックス・エロチック美術の歴史	一八九二年 五、3000
21	(英)フックス・風俗の歴史	一八九二年 五、3000
22	角川文庫 全9冊	三、3000
23	岩波文庫 全16冊揃	三、3000
24	季刊銀花 第37号～41号、42号、44号	昭、75 各、600
25	紙魚の昔がたり 復刻版 反町茂雄編	昭、75 昭、55 各、600
26	カーテー他編・西洋をきずいた書物	昭、75 昭、55 各、600
27	本の美しさを求めて プレ・グーテンベルク時代	昭、75 昭、55 各、600
28	日本の書物 辞書風物誌	昭、75 昭、55 各、600
29	新聞事始め	昭、75 昭、55 各、600

滋賀県市町村沿革史	全6巻	滋賀県	昭42-50、000
橋本伝左衛門他監昭14	四、五〇〇		
民主主義十二講	一、〇〇〇		
回想！戦後主要左翼事件－	三、〇〇〇		
日本の恐怖－赤色テロとの対決－	二、〇〇〇		
日本社会党の進路	三、〇〇〇		
社会主義と自由	三、〇〇〇		
鳴呼！労働農民党	一、〇〇〇		
ソ聯特派五年	一、〇〇〇		
ベルツ・死と日本人	一、〇〇〇		
通信労働運動史	一、〇〇〇		
郵政労働運動史	一、〇〇〇		
男女同一労働同一賃金	一、〇〇〇		
選舉大觀	一、〇〇〇		
昭21・22・24・25・27・28年	（6冊）	朝日新聞社	三、〇〇〇
自由党から民自党へ			
近衛内閣史論			
大石誠之助全集	全2冊	森長・仲原編	三、〇〇〇
加藤時次郎選集		坂野善郎	三、〇〇〇
自由党大阪事件（昭7復刻）		馬場恒吾	一、〇〇〇
山口広司		昭23	一、〇〇〇
終戦三論			
ファシズムと其國家理論			
附イタリヤ労働憲章・ドイツナチス綱領	五米欣造	昭12	六、〇〇〇
パシフィカス・マッカーサー元帥の	昭12	昭56	四、〇〇〇
日本再建構想	高田元三郎訳	昭21	三、〇〇〇
永田町一番地－外交敗戦秘録－	中村正吾	昭21	一、五〇〇
コンラット・アデナウアー	鹿島守之助	昭37	一、五〇〇
赤化防止団闘争二年史	民族情報社	昭29	四、〇〇〇
帝国憲法皇室典範義解	伊藤博文	昭29	五、〇〇〇

97	世界の運命と國家の運命	モーゲンソー・世界政治と國家理性	鈴木成高他訳 昭24二、0000
96	封建社会の研究	鈴木成高他訳 昭23六、0000	鈴木成高他訳 昭23六、0000
95	農業生産の展開構造 中河内郡加美・巽・長瀬三ヶ村聯合耕地 整理事業誌 森永五十五年史	東畠 磯邊(編) 昭32四、0000 宮崎英治郎 昭50三、0000 木村小筠 昭43三、0000 昭14四、0000	宮崎英治郎 昭32四、0000 木村小筠 昭43三、0000 昭14四、0000
94	ソビエト科学アカデミー版・世界史 古代全6冊	江口朴郎他訳 昭38六、0000	江口朴郎他訳 昭38六、0000
93	宮崎百二十年の歩み 安宅産業八十年史	昭88昭87昭86昭85昭84昭83昭82	昭88昭87昭86昭85昭84昭83昭82
92	電気協会十年史 別子開坑二百五十年史話	日本財閥論 クラウサー唯物史觀科學思想史 技術発達史 ハーバート藍・独逸の統制政策 インフレーションの研究 ハーバード・産業統制論	昭81昭80昭79昭78昭77昭76 昭81昭80昭79昭78昭77昭76 昭81昭80昭79昭78昭77昭76 昭81昭80昭79昭78昭77昭76 昭81昭80昭79昭78昭77昭76 昭81昭80昭79昭78昭77昭76
91	農業生産の展開構造 中河内郡加美・巽・長瀬三ヶ村聯合耕地 整理事業誌 森永五十五年史	鈴木茂三郎 昭9四、0000 加茂儀一 昭18四、0000 山田詔昭27八、0000 同協会 昭7二、0000	鈴木茂三郎 昭9四、0000 加茂儀一 昭18四、0000 山田詔昭27八、0000 同協会 昭7二、0000
90	鈴木成高他訳 昭24二、0000	野田・川村訳 昭29三、0000 長守善訳 昭40二、0000 木村禮八郎 昭23一、0000 木村禮八郎 昭23一、0000 吉村達次 昭47五、0000 河上肇 昭45三、0000	野田・川村訳 昭29三、0000 長守善訳 昭40二、0000 木村禮八郎 昭23一、0000 木村禮八郎 昭23一、0000 吉村達次 昭47五、0000 河上肇 昭45三、0000
89	鈴木成高他訳 昭24二、0000	牧山耕平訳 昭30五、0000 岩波書店 昭49四、0000	牧山耕平訳 昭30五、0000 岩波書店 昭49四、0000
88	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
87	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
86	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
85	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
84	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
83	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
82	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
81	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
80	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
79	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
78	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
77	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
76	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
75	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
74	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
73	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
72	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
71	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
70	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
69	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
68	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
67	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
66	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70
65	日本化織産業論—その独占支配の分析—	昭75昭74昭73昭72昭71昭70	昭75昭74昭73昭72昭71昭70

御注文は各書店へ

下
606

京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

井上書店

1 近世知行制の研究	鈴木壽	日本美術叢書 昭	六,〇〇〇
2 藩制成立期の研究	金井圓	吉川弘文館 昭	五,〇〇〇
3 古代国家解体過程の研究	村井 康彦	一、〇〇〇	五,〇〇〇
4 古代の日本と朝鮮	上田正昭・井上秀雄	昭 50	四,〇〇〇
5 南北朝史論	村田 正志	箱無 昭	三,〇〇〇
6 中世社会の基本構造	日本研究会新幹部会編	箱無 昭	二,〇〇〇
7 中世社会の研究	松本 新八郎	箱無 昭	二,〇〇〇
8 中村直勝著作集三	南朝の研究	箱無 昭	二,〇〇〇
9 中村直勝著作集四	莊園の研究	箱無 昭	二,〇〇〇
10 中村直勝著作集六	歴代天皇紀	箱無 昭	二,〇〇〇
11 日本史の問題点	日本歴史学会編	吉川弘文館 昭	一,〇〇〇
12 明治維新史研究	羽仁 五郎	田辺 勝哉	一,〇〇〇
13 日向の研究	太田 亮	栗原講座刊行会 昭	一,〇〇〇
14 神道史	文華堂 昭	昭 49	一,〇〇〇
15 日本書紀神代巻新釋	羽仁 五郎	田辺 勝哉	一,〇〇〇
16 沖縄の宗教と社会構造	W·P·リーブラ	昭 42	一,〇〇〇
17 海南政典・海南律例の研究	石尾芳久	昭 56	一,〇〇〇
18 英国史 上下二冊	アンドレモーロフ	昭 18	一,〇〇〇
19 東欧の新世界	日本水社 昭	昭 13	一,〇〇〇
20 真珠湾への道	ヒューリットジョンソン	昭 11	一,〇〇〇
21 世界の思想史 上下二冊	名和 統一	昭 20	一,〇〇〇
22 アメリカ文学論	高垣 順原	昭 32	一,〇〇〇
23 マルクス・エンゲルス文学	浜口 雄幸遺稿	昭 13	一,〇〇〇
24 戦後日本の企業集團	宮崎 義一	昭 41	一,〇〇〇
25 國際価値論研究	井上 謙三遺文抄	昭 41	一,〇〇〇
26 随感録	松村 謙三	昭 28	一,〇〇〇
27 青鹿居隨筆	井上 基之助	昭 29	一,〇〇〇
28 キング	並 並	昭 30	一,〇〇〇
29 キング	昭 31	一,〇〇〇	
30 キング	昭 32	一,〇〇〇	
31 キング	昭 33	一,〇〇〇	
32 キング	昭 34	一,〇〇〇	
33 キング	昭 35	一,〇〇〇	
34 キング	昭 36	一,〇〇〇	
35 キング	昭 37	一,〇〇〇	
36 キング	昭 38	一,〇〇〇	
37 キング	昭 39	一,〇〇〇	
38 キング	昭 40	一,〇〇〇	
39 キング	昭 41	一,〇〇〇	
40 キング	昭 42	一,〇〇〇	
41 キング	昭 43	一,〇〇〇	
42 キング	昭 44	一,〇〇〇	
43 キング	昭 45	一,〇〇〇	
44 キング	昭 46	一,〇〇〇	
45 キング	昭 47	一,〇〇〇	
46 キング	昭 48	一,〇〇〇	
47 キング	昭 49	一,〇〇〇	
48 キング	昭 50	一,〇〇〇	
49 キング	昭 51	一,〇〇〇	
50 キング	昭 52	一,〇〇〇	
51 キング	昭 53	一,〇〇〇	
52 キング	昭 54	一,〇〇〇	
53 キング	昭 55	一,〇〇〇	
54 キング	昭 56	一,〇〇〇	
55 キング	昭 57	一,〇〇〇	
56 キング	昭 58	一,〇〇〇	
57 キング	昭 59	一,〇〇〇	
58 キング	昭 60	一,〇〇〇	
59 キング	昭 61	一,〇〇〇	
60 キング	昭 62	一,〇〇〇	
61 キング	昭 63	一,〇〇〇	
62 キング	昭 64	一,〇〇〇	
63 キング	昭 65	一,〇〇〇	
64 キング	昭 66	一,〇〇〇	
65 キング	昭 67	一,〇〇〇	
66 キング	昭 68	一,〇〇〇	
67 キング	昭 69	一,〇〇〇	
68 キング	昭 70	一,〇〇〇	
69 キング	昭 71	一,〇〇〇	
70 キング	昭 72	一,〇〇〇	
71 キング	昭 73	一,〇〇〇	
72 キング	昭 74	一,〇〇〇	
73 キング	昭 75	一,〇〇〇	
74 キング	昭 76	一,〇〇〇	
75 キング	昭 77	一,〇〇〇	
76 キング	昭 78	一,〇〇〇	
77 キング	昭 79	一,〇〇〇	
78 キング	昭 80	一,〇〇〇	
79 キング	昭 81	一,〇〇〇	
80 キング	昭 82	一,〇〇〇	
81 キング	昭 83	一,〇〇〇	
82 キング	昭 84	一,〇〇〇	
83 キング	昭 85	一,〇〇〇	
84 キング	昭 86	一,〇〇〇	
85 キング	昭 87	一,〇〇〇	
86 キング	昭 88	一,〇〇〇	
87 キング	昭 89	一,〇〇〇	
88 キング	昭 90	一,〇〇〇	
89 キング	昭 91	一,〇〇〇	
90 キング	昭 92	一,〇〇〇	
91 キング	昭 93	一,〇〇〇	
92 キング	昭 94	一,〇〇〇	
93 キング	昭 95	一,〇〇〇	
94 キング	昭 96	一,〇〇〇	
95 キング	昭 97	一,〇〇〇	
96 キング	昭 98	一,〇〇〇	
97 キング	昭 99	一,〇〇〇	
98 キング	昭 100	一,〇〇〇	

下
606

京都市左京区田中里ノ前町 55

福田屋書店

電話 (〇七五) 七八一一二二一六

振替 京都 二九七

1 二千五百年史 初版	竹越与三郎	明 29	三,〇〇〇
2 大日本方言地図 (国語方言区割)	東條操	明 29	三,〇〇〇
3 佐賀県方言語典 (国語方言区割)	佐賀県教育会	明 36	三,〇〇〇
4 理数科教育の行き方	下村市郎	昭 18	二,〇〇〇
5 理科教授学 (神戸) (科学教育論 福井)	福井	昭 11	一,〇〇〇
6 おもちゃの理科研究 (池や川の植物研究)	池や川	昭 18	各、〇〇〇
7 教育辞典 入沢宗寿	入沢宗寿	昭 7	三,〇〇〇
8 農業小辞典	日本評論社	昭 11	四,〇〇〇
9 宮本武蔵 (武教特別号)	藤野富之助	明 19	三,〇〇〇
10 幽境の旅 北村透	北村透	昭 49	二,〇〇〇
11 宮本武蔵 (本山葵春陽堂著物文三双書)	本山葵春	昭 13	一,〇〇〇
12 平野國臣公 春山彦次郎	平野國臣公	昭 12	一,〇〇〇
13 宮本武蔵 (本山葵春陽堂著物文三双書)	本山葵春	昭 13	一,〇〇〇
14 小手捕縄の研究	大山倍達	昭 13	一,〇〇〇
15 史科明治武道史 渡辺一郎編	大山倍達	昭 17	五,〇〇〇
16 上泉義守秀穂と其門下	谷由左一小冊子	昭 12	一,〇〇〇
17 剣士内藤高治 大山熊雄	大山熊雄	昭 12	一,〇〇〇
18 上泉義守秀穂と其門下	藤本尚則	昭 13	一,〇〇〇
19 平野國臣公 春山彦次郎	平野國臣公	昭 13	一,〇〇〇
20 上泉義守秀穂と其門下	谷由左一小冊子	昭 12	一,〇〇〇
21 上泉義守秀穂と其門下	藤本尚則	昭 13	一,〇〇〇
22 連続分類による柔道の技法	工藤一三	昭 14	一,〇〇〇
23 史科明治武道史 渡辺一郎編	工藤一三	昭 16	一,〇〇〇
24 史科明治武道史 渡辺一郎編	大山倍達	昭 17	一,〇〇〇
25 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 17	一,〇〇〇
26 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 18	一,〇〇〇
27 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 19	一,〇〇〇
28 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 20	一,〇〇〇
29 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 21	一,〇〇〇
30 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 22	一,〇〇〇
31 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 23	一,〇〇〇
32 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 24	一,〇〇〇
33 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 25	一,〇〇〇
34 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 26	一,〇〇〇
35 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 27	一,〇〇〇
36 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 28	一,〇〇〇
37 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 29	一,〇〇〇
38 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 30	一,〇〇〇
39 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 31	一,〇〇〇
40 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 32	一,〇〇〇
41 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 33	一,〇〇〇
42 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 34	一,〇〇〇
43 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 35	一,〇〇〇
44 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 36	一,〇〇〇
45 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 37	一,〇〇〇
46 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 38	一,〇〇〇
47 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 39	一,〇〇〇
48 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 40	一,〇〇〇
49 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 41	一,〇〇〇
50 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 42	一,〇〇〇
51 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 43	一,〇〇〇
52 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 44	一,〇〇〇
53 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 45	一,〇〇〇
54 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 46	一,〇〇〇
55 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 47	一,〇〇〇
56 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 48	一,〇〇〇
57 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 49	一,〇〇〇
58 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 50	一,〇〇〇
59 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 51	一,〇〇〇
60 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 52	一,〇〇〇
61 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 53	一,〇〇〇
62 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 54	一,〇〇〇
63 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 55	一,〇〇〇
64 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 56	一,〇〇〇
65 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 57	一,〇〇〇
66 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 58	一,〇〇〇
67 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 59	一,〇〇〇
68 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 60	一,〇〇〇
69 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 61	一,〇〇〇
70 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 62	一,〇〇〇
71 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 63	一,〇〇〇
72 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 64	一,〇〇〇
73 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 65	一,〇〇〇
74 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 66	一,〇〇〇
75 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 67	一,〇〇〇
76 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 68	一,〇〇〇
77 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 69	一,〇〇〇
78 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 70	一,〇〇〇
79 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 71	一,〇〇〇
80 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 72	一,〇〇〇
81 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 73	一,〇〇〇
82 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 74	一,〇〇〇
83 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 75	一,〇〇〇
84 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 76	一,〇〇〇
85 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 77	一,〇〇〇
86 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 78	一,〇〇〇
87 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 79	一,〇〇〇
88 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 80	一,〇〇〇
89 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 81	一,〇〇〇
90 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 82	一,〇〇〇
91 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 83	一,〇〇〇
92 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 84	一,〇〇〇
93 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 85	一,〇〇〇
94 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 86	一,〇〇〇
95 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 87	一,〇〇〇
96 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 88	一,〇〇〇
97 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 89	一,〇〇〇
98 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 90	一,〇〇〇
99 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 91	一,〇〇〇
100 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 92	一,〇〇〇
101 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 93	一,〇〇〇
102 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 94	一,〇〇〇
103 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 95	一,〇〇〇
104 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 96	一,〇〇〇
105 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 97	一,〇〇〇
106 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 98	一,〇〇〇
107 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 99	一,〇〇〇
108 亂世の柔道 (正統二冊)	大山倍達	昭 100	一,〇〇〇

下
602

京都市上京区烏丸通今出川上ル

同志社正門前

沢田書店

電話 (〇七五) 四五一〇五三三

振替 京都 一九一四八

1 仏教美術	中村亮平	宝雲社	昭 18	三,〇〇〇	
2 仏像の鑑賞	中村亮平	宝雲社	昭 19	二,〇〇〇	
3 日本初期洋画の研究	西村貞	カバー付	全国書房	昭 20	二,〇〇〇
4 理数科教育の行き方	下村市郎	カバー付	全国書房	昭 21	二,〇〇〇
5 ホットマントン自選日記	高村光太郎	函付	双文閣	昭 22	二,〇〇〇
6 理科教授学 (ホウズマス)	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 23	一,〇〇〇
7 おもちゃの理科教授学	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 24	一,〇〇〇
8 球類の理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 25	一,〇〇〇
9 球類の理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 26	一,〇〇〇
10 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 27	一,〇〇〇
11 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 28	一,〇〇〇
12 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 29	一,〇〇〇
13 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 30	一,〇〇〇
14 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 31	一,〇〇〇
15 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 32	一,〇〇〇
16 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 33	一,〇〇〇
17 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 34	一,〇〇〇
18 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司	函付	新生堂	昭 35	一,〇〇〇
19 おもちゃの理科教授法	鷹見泰司				

4	海法傳真痕	天滿大自在天神之圖	英京版画	一帧
5	高野山春深筆	寺号山額寫	正保四年写	長卷
6	法華題目	木版摺	明和六年日要上人	長卷
6	日蓮上人一代図記	法明著 頃秀著 自日本元和 著者共	一幅	六、五〇〇
7	般若心經	木版摺	大幅三幅	六、五〇〇
8	細字般若心經	絹本	一枚	一、〇〇〇
9	東寺牛王印	江戸末	一枚	一、〇〇〇
10	古今集断卷一葉	室町末古写	一枚	三、〇〇〇
11	婚礼胸守書	江戸中写	一枚	三、〇〇〇
12	問題	法身説法 阿含佛性	一枚	三、〇〇〇
13	婚札五ヶ條大事	江戸中写	一枚	二、〇〇〇
14	御說言御床飭御獻立	江戸中写	一枚	二通 四、五〇〇
15	神道觸穢大事	江戸中写	一枚	三、〇〇〇
16	神道日想觀大事	江戸中写	一枚	三、〇〇〇
17	鎌倉時代紙背消息	江戸中写	一枚	二通 三、〇〇〇
18	永祿七年八月吉日写	江戸中写	一枚	四、五〇〇
19	蛇ヶ谷山洞春庵當山校割帳	江戸中写	一枚	四、五〇〇
20	修驗記	江戸中写	一枚	四、五〇〇
21	貞享式	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
22	應永記	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
23	山菴錄	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
24	菊池容斎粉本	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
25	村雲所瑞龍寺宮寺号	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
26	三岳山權現之図	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
27	龍山南禪僧堂印施	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
28	貴名海屋二行書	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
29	賴支峰筆漢詩書	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
30	萩生徂徠一行書	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
31	村田春門短冊	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
32	牡丹花有柏門宗稿短冊	江戸中期写本	一枚	四、五〇〇
大倉喜八郎色紙	ウブ表裝汚れ有り。	合本	一枚	七、〇〇〇

石川古本店

電話七五〇一—一五四二

藤井文政堂

電話(○七五)三五一九三六三
振替 大阪 七一三一五二

出町と衣笠
(株) 善書堂

出町店 〒602
衣笠店 〒603
上京区河原町通今出川上ル
電話(〇七五)二三一七二一
北区西大路通平野神社北隣
電話(〇七五)四六二二三七一

きりしたん版集成・古語書叢刊・日本近代文学大事典・日本歌人講座・近世文芸叢刊・日本文学講座・台密部・親鸞全集・近世禪林全集・佛敎大辭典・現代日本仏教全書・高僧遺墨・村泰賀全集・国譯大藏經・経部・弘法大師諸弟子全集・カルヴァン・キリスト教綱要・新約聖書註解・賀川豊彦全集・現代キリスト教講座・九鬼周造全集・天野貞祐全集・原典・中国近代思想史・レーニン全集・マルクスエンゲルス全集・グラムシ選集・経済学説全集・現代経済学・法社会学講座・(英文)ロック全集・(独文)ニーチェ全集・(独文)プラトン全集・融和事業研究・日本文化史・新編物語藩史・明治大正図誌・神宮明治百年史・大系日本國家史・江戸時代文化・平戸オランダ商館の日記・長崎オランダ商館の日記・大日本租税史・新編相模國風土記稿・中世法制度史料集・日本人口史之研究・正室事録・日本祭祀研究集成・明治前日本数学史・ハーバートノーマン全集・トイنبير著作集・ロイス日本史・寿岳文章しづ著作集・柳宗悦選集・美術研究・日本の工芸・河北倫明美術論集・川上澄生全集・大正名器館・伝統と現代・石井鶴三文集・いけばな大系・在外日本の至宝・世界の文化史・蹟・ファン・ギッベ簡大系・在日展史・日本風俗画集成・茶道・落語・北條秀司戯曲選集・イニエスコ全集・会田雄次著作集・小川未明小説全集・尾崎全集・小沼丹作品集・梶井基次郎全集・北一輝著作集・佐藤清全集・椎名麟三全集・ビブリオテカ滋澤龍彦・滋澤龍彦集成・島尾敏雄非小説集成・島尾敏雄作品集・神西清全集・鎌木三重吉全集・高橋和己作品集・其角全集・田中英光全集・合谷潤一郎全集・辻邦生作品・寺田寅彦全集・中原中也全集・秋原朔太郎全詩集・福永武彦全文集・富岡朽葉全集・校本宮澤賢治全集・定本柳田国男集・パスクアル全集・シェイクスピア全集・ヘミングウェイ全集・フィリップ全集・失われた時を求めて・ボーゲオワール著作集・ラディゲ全集・ロートレアモン全集・ランボオ全集・藤村全集・価格等は電話にてお問合せ下さい。

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一四
法律・経済思想書
一般書
竹岡書店
電話(〇七五)七六一—四五五五
振替京都 四二六一二
のこ来店を心からお待ち申し上げております。
今回ご注文のお客様には送料をサービスさせていただけます。

支那曆法起原考	吉利支丹論攷	土井忠生昭	30 29 28
新版日本古代社会校倉歴史選書)	飯島忠夫昭	七、二〇	
ワッパ騒動と自由民権(ク)	渡辺義通昭	六、二〇	
佐藤誠朗昭	二、四〇		
民俗調査研究の基礎資料	(日本の民俗)有精堂昭	三、六〇	
江戸幕府都代官史料集(日本史料選書)	昭	五、五〇	
神社を中心としたる寶飯郡史	内山・加藤他昭	五五	
遠江国風土記	梶原藍水昭	五七	
古今讃名勝圖絵	小川信昭	五七	
足利一門守護発達史の研究	今井雅晴昭	五六	
時宗成立史の研究	同会編昭	五七	
讃岐史談 全3冊	三、八〇		
鳳来寺山文献の研究	同史談会編昭	五三	
土佐史の諸問題	同資料刊行会昭	五三	
越後の石器	山本・大編昭	五三	
島根縣誌	中村孝三郎昭	五三	
予陽河野家譜	景浦勉昭	五六	
阿波伝説集	大村孤舟昭	五六	
阿波源流会	泰村哲昭	五六	
三重県風土史蹟	同教育会昭	五六	
島根縣歴史地理資料	高木之谿昭	五六	
島根縣志	横山春陽昭	五六	
尾參郷土史	石毛賢之助昭	五六	
尾三史話	桜井祐吉昭	五六	
阿波文芸史	吉永正春昭	五六	
九州戦国史	佐野正巳昭	五六	
松江藩學芸史の研究	杉原太夫昭	五六	
越前若狭の伝説	中埜喜雄昭	五六	
大阪町人相続の研究	天野久一郎昭	五六	
前船頭の幕末自叙伝	岩崎小弥太昭	五六	
古琉球の世界	比嘉実昭	五六	
敦賀経済発達史	比嘉昭	五六	
京畿社奉考	一川瀬甚太夫昭	五六	
近代日本と伊波普猷	大野記一郎昭	五六	
喜田貞吉著作集	昭	五六	
民具研究の軌跡	田中香淮昭	五六	
—服飾の民俗学的研究—	宮本馨太郎昭	四五	
勝田勝年昭	昭	四五	
有賀喜左衛門昭	昭	四五	
田中香淮昭	一二、〇〇		
三浦周行の歴史学	三浦周行昭	一二、〇〇	
日本婚姻史論	昭	一二、〇〇	
江戸時代の男女関係	昭	一二、〇〇	

賀茂真淵と管江真澄	66
杉田玄伯日記	67
鷗斎日録(蘭学資料叢書)	68
植松有信遺文集	69
日韓外交史料	70
ダバオ開拓記	71
部落問題の教育史的研究	72
部落史研究文献目録	73
京都部落史研究所昭57四、六〇〇〇	74
医学思想史	75
2冊	76
大英帝国とインド	77
インドシナ物語	78
バル・コホバ――第二次ユダヤ叛乱の伝説的	79
英雄の発掘――ヤディン・小川昭54五、一〇〇	80
中国近代史 全3冊	81
近代理財の社会と思想	82
ロシア史の時代区分全2冊	83
ロシア革命と労使関係の展開	84
日本とアメリカ	85
相国のイメージ研究 加藤龟井編昭52四、六〇〇	86
ハロルド・ラスキの政治理想 ディーン・野村昭52二、二〇〇	87
現代政治学の位相	88
イギリス社会主義運動と知識人	89
アメリカの対外政策決定過程	90
台湾霧社蜂起事件 研究と資料	91
精神医学と人間――精神医学論文集――	92
ヨーロッパ精神史 ヘーア・小山・小西昭56二、一〇〇	93
科学と哲学の界面 大森・伊東昭55四、二〇〇	94
嘉納治五郎の教育と思想 長谷川純三昭56七、二〇〇	95
列子の研究 一老庄思想研究序説――	96
頼山陽文集 安藤英男昭55二、八〇〇	97
イエール学派の学習理論 富田達彦昭57三、七〇〇	98
宗教と部落差別 仲尾俊博昭51三、八〇〇	99
網島梁川の生涯と思想 虫明・行安昭56二、五〇〇	100

〒

大阪市北区芝田一丁目六番二号

阪急古書のまち

(株)臨川書店 大阪店電話(06)三七四一三〇〇
振替京都八〇〇〇

営業時間

午前十一時

午後八時

定休日

毎週水曜日

1 北越名流遺芳
2 偕聖管原道真公
3 俊寛
4 成吉思汗は源義経也
5 人間豊臣秀吉
6 純忠菊池氏と大智禪師
7 大友宗麟建勲史
8 藤原公伝記(安藤直次公)
9 德川家光
10 大岡越前守
11 本内宗吾
12 加藤司書伝
13 偕人野中兼山
14 野中兼山
15 小楠先生小伝
16 吉田松陰の遊歴
17 春日潛菴小伝並遺稿
18 宇都宮黙霖
19 大橋訥菴先生伝
20 県六石の研究
21 志士の生涯(横川省三伝)
22 服部安休伝
23 大橋訥菴先生伝
24 真人横川省三
25 津久井龍雄
26 田中惣五郎
27 田中惣五郎
28 田中惣五郎
29 白石と徂徠と春臺
30 藤田幽谷の研究
31 随筆藤田東湖
32 藤田東湖の生涯と思想
33 浅見綱齋先生と其の主張
34 江川坦庵
35 二宮尊徳伝
36 鷹山公偉蹟錄
37 金原明善翁
38 石川翁農道要典
39 大島貞益
40 伊能忠敬
41 長久保赤水
42 海の先覚者藤川三溪伝
43 来曼先生小伝
44 開場理堂選集
45 新島先生片鱗
46 デビス
47 古事記拾考知友新稿
48 時勢と人物
49 日本名婦伝
50 最近の蘇峰先生
51 德富蘇峰翁と病床の婦人秘書
52 蘇峰と蘆花
53 臣人高峰博士
54 野口英世
55 藤浪先生追悼録
56 新衛直麿追悼録
57 鼓村桂記
58 高谷宗範伝
59 乃木院長記念録
60 杉浦重剛先生集(一)
61 この人吉田秀雄
62 広田孝一遺稿集
63 下出隼吉遺稿
64 物外三好愛吉先生
65 大迫尚隆遺稿
66 大橋佐平翁伝
67 夢中語
68 本稿
69 岩波茂雄伝
70 とくと我を見たまえー若松賤子の生涯

71 葛人野中兼山
72 佐々井伸太郎
73 佐藤豊吉
74 長谷川吉郎監修
75 片岡直輝翁記念誌
76 和田豊治伝
77 古河潤吉君伝
78 日下義雄伝
79 鶴原定吉君略伝
80 濱岡光哲翁七十七年史
81 小山建伝
82 松風嘉定
83 市会議員時代の谷口房藏翁
84 谷口房藏翁伝
85 馬越恭平翁伝
86 繩肥後商工先達小伝
87 伊藤伝七翁
88 大林芳五郎伝
89 小松臺灣存
90 湯浅達一
91 松本留吉
92 松殿山莊茶道会
93 吉田俊之助氏追憶録
94 真翁書き書(眞藤慎太郎)
95 伊藤侯演説集
96 評伝伊藤博文
97 藤公餘影
98 大隈重信
99 人間大隈重信
100 大隈熊子夫人言行録
101 岩村通世伝
102 史伝板垣退助
103 近衛文麿
104 硬石五十周年譜(内田良平自伝)
105 片山藩遺稿
106 寒村自伝
107 大浦兼武伝
108 稲葉宗太郎伝
109 北雷庭房先生伝(上)
110 東京市長
111 安部能成
112 山口玲子
113 同編集委員会
114 貴司山治
115 昭和49年
116 昭和49年
117 昭和49年
118 昭和49年
119 昭和49年
120 昭和49年
121 昭和49年
122 昭和49年
123 昭和49年
124 昭和49年
125 昭和49年
126 昭和49年
127 昭和49年
128 昭和49年
129 昭和49年
130 昭和49年
131 昭和49年
132 昭和49年
133 昭和49年
134 昭和49年
135 昭和49年
136 昭和49年
137 昭和49年
138 昭和49年
139 昭和49年
140 昭和49年
141 昭和49年
142 昭和49年
143 昭和49年
144 昭和49年
145 昭和49年
146 昭和49年
147 昭和49年
148 昭和49年
149 昭和49年
150 昭和49年
151 昭和49年
152 昭和49年
153 昭和49年
154 昭和49年
155 昭和49年
156 昭和49年
157 昭和49年
158 昭和49年
159 昭和49年
160 昭和49年
161 昭和49年
162 昭和49年
163 昭和49年
164 昭和49年
165 昭和49年
166 昭和49年
167 昭和49年
168 昭和49年
169 昭和49年
170 昭和49年
171 昭和49年
172 昭和49年
173 昭和49年
174 昭和49年
175 昭和49年
176 昭和49年
177 昭和49年
178 昭和49年
179 昭和49年
180 昭和49年
181 昭和49年
182 昭和49年
183 昭和49年
184 昭和49年
185 昭和49年
186 昭和49年
187 昭和49年
188 昭和49年
189 昭和49年
190 昭和49年
191 昭和49年
192 昭和49年
193 昭和49年
194 昭和49年
195 昭和49年
196 昭和49年
197 昭和49年
198 昭和49年
199 昭和49年
200 昭和49年
201 昭和49年
202 昭和49年
203 昭和49年
204 昭和49年
205 昭和49年
206 昭和49年
207 昭和49年
208 昭和49年
209 昭和49年
210 昭和49年
211 昭和49年
212 昭和49年
213 昭和49年
214 昭和49年
215 昭和49年
216 昭和49年
217 昭和49年
218 昭和49年
219 昭和49年
220 昭和49年
221 昭和49年
222 昭和49年
223 昭和49年
224 昭和49年
225 昭和49年
226 昭和49年
227 昭和49年
228 昭和49年
229 昭和49年
230 昭和49年
231 昭和49年
232 昭和49年
233 昭和49年
234 昭和49年
235 昭和49年
236 昭和49年
237 昭和49年
238 昭和49年
239 昭和49年
240 昭和49年
241 昭和49年
242 昭和49年
243 昭和49年
244 昭和49年
245 昭和49年
246 昭和49年
247 昭和49年
248 昭和49年
249 昭和49年
250 昭和49年
251 昭和49年
252 昭和49年
253 昭和49年
254 昭和49年
255 昭和49年
256 昭和49年
257 昭和49年
258 昭和49年
259 昭和49年
260 昭和49年
261 昭和49年
262 昭和49年
263 昭和49年
264 昭和49年
265 昭和49年
266 昭和49年
267 昭和49年
268 昭和49年
269 昭和49年
270 昭和49年
271 昭和49年
272 昭和49年
273 昭和49年
274 昭和49年
275 昭和49年
276 昭和49年
277 昭和49年
278 昭和49年
279 昭和49年
280 昭和49年
281 昭和49年
282 昭和49年
283 昭和49年
284 昭和49年
285 昭和49年
286 昭和49年
287 昭和49年
288 昭和49年
289 昭和49年
290 昭和49年
291 昭和49年
292 昭和49年
293 昭和49年
294 昭和49年
295 昭和49年
296 昭和49年
297 昭和49年
298 昭和49年
299 昭和49年
300 昭和49年
301 昭和49年
302 昭和49年
303 昭和49年
304 昭和49年
305 昭和49年
306 昭和49年
307 昭和49年
308 昭和49年
309 昭和49年
310 昭和49年
311 昭和49年
312 昭和49年
313 昭和49年
314 昭和49年
315 昭和49年
316 昭和49年
317 昭和49年
318 昭和49年
319 昭和49年
320 昭和49年
321 昭和49年
322 昭和49年
323 昭和49年
324 昭和49年
325 昭和49年
326 昭和49年
327 昭和49年
328 昭和49年
329 昭和49年
330 昭和49年
331 昭和49年
332 昭和49年
333 昭和49年
334 昭和49年
335 昭和49年
336 昭和49年
337 昭和49年
338 昭和49年
339 昭和49年
340 昭和49年
341 昭和49年
342 昭和49年
343 昭和49年
344 昭和49年
345 昭和49年
346 昭和49年
347 昭和49年
348 昭和49年
349 昭和49年
350 昭和49年
351 昭和49年
352 昭和49年
353 昭和49年
354 昭和49年
355 昭和49年
356 昭和49年
357 昭和49年
358 昭和49年
359 昭和49年
360 昭和49年
361 昭和49年
362 昭和49年
363 昭和49年
364 昭和49年
365 昭和49年
366 昭和49年
367 昭和49年
368 昭和49年
369 昭和49年
370 昭和49年
371 昭和49年
372 昭和49年
373 昭和49年
374 昭和49年
375 昭和49年
376 昭和49年
377 昭和49年
378 昭和49年
379 昭和49年
380 昭和49年
381 昭和49年
382 昭和49年
383 昭和49年
384 昭和49年
385 昭和49年
386 昭和49年
387 昭和49年
388 昭和49年
389 昭和49年
390 昭和49年
391 昭和49年
392 昭和49年
393 昭和49年
394 昭和49年
395 昭和49年
396 昭和49年
397 昭和49年
398 昭和49年
399 昭和49年
400 昭和49年
401 昭和49年
402 昭和49年
403 昭和49年
404 昭和49年
405 昭和49年
406 昭和49年
407 昭和49年
408 昭和49年
409 昭和49年
410 昭和49年
411 昭和49年
412 昭和49年
413 昭和49年
414 昭和49年
415 昭和49年
416 昭和49年
417 昭和49年
418 昭和49年
419 昭和49年
420 昭和49年
421 昭和49年
422 昭和49年
423 昭和49年
424 昭和49年
425 昭和49年
426 昭和49年
427 昭和49年
428 昭和49年
429 昭和49年
430 昭和49年
431 昭和49年
432 昭和49年
433 昭和49年
434 昭和49年
435 昭和49年
436 昭和49年
437 昭和49年
438 昭和49年
439 昭和49年
440 昭和49年
441 昭和49年
442 昭和49年
443 昭和49年
444 昭和49年
445 昭和49年
446 昭和49年
447 昭和49年
448 昭和49年
449 昭和49年
450 昭和49年
451 昭和49年
452 昭和49年
453 昭和49年
454 昭和49年
455 昭和49年
456 昭和49年
457 昭和49年
458 昭和49年
459 昭和49年
460 昭和49年
461 昭和49年
462 昭和49年
463 昭和49年
464 昭和49年
465 昭和49年
466 昭和49年
467 昭和49年
468 昭和49年
469 昭和49年
470 昭和49年
471 昭和49年
472 昭和49年
473 昭和49年
474 昭和49年
475 昭和49年
476 昭和49年
477 昭和49年
478 昭和49年
479 昭和49年
480 昭和49年
481 昭和49年
482 昭和49年
483 昭和49年
484 昭和49年
485 昭和49年
486 昭和49年
487 昭和49年
488 昭和49年
489 昭和49年
490 昭和49年
491 昭和49年
492 昭和49年
493 昭和49年
494 昭和49年
495 昭和49年
496 昭和49年
497 昭和49年
498 昭和49年
499 昭和49年
500 昭和49年
501 昭和49年
502 昭和49年
503 昭和49年
504 昭和49年
505 昭和49年
506 昭和49年
507 昭和49年
508 昭和49年
509 昭和49年
510 昭和49年
511 昭和49年
512 昭和49年
513 昭和49年
514 昭和49年
515 昭和49年
516 昭和49年
517 昭和49年
518 昭和49年
519 昭和49年
520 昭和49年
521 昭和49年
522 昭和49年
523 昭和49年
524 昭和49年
525 昭和49年
526 昭和49年
527 昭和49年
528 昭和49年
529 昭和49年
530 昭和49年
531 昭和49年
532 昭和49年
533 昭和49年
534 昭和49年
535 昭和49年
536 昭和49年
537 昭和49年
538 昭和49年
539 昭和49年
540 昭和49年
541 昭和49年
542 昭和49年
543 昭和49年
544 昭和49年
545 昭和49年
546 昭和49年
547 昭和49年
548 昭和49年
549 昭和49年
550 昭和49年
551 昭和49年
552 昭和49年
553 昭和49年
554 昭和49年
555 昭和49年
556 昭和49年
557 昭和49年
558 昭和49年
559 昭和49年
560 昭和49年
561 昭和49年
562 昭和49年
563 昭和49年
564 昭和49年
565 昭和49年
566 昭和49年
567 昭和49年
568 昭和49年
569 昭和49年
570 昭和49年
571 昭和49年
572 昭和49年
573 昭和49年
574 昭和49年
575 昭和49年
576 昭和49年
577 昭和49年
578 昭和49年
579 昭和49年
580 昭和49年
581 昭和49年
582 昭和49年
583 昭和49年
584 昭和49年
585 昭和49年
586 昭和49年
587 昭和49年
588 昭和49年
589 昭和49年
590 昭和49年
591 昭和49年
592 昭和49年
593 昭和49年
594 昭和49年
595 昭和49年
596 昭和49年
597 昭和49年
598 昭和49年
599 昭和49年
600 昭和49年
601 昭和49年
602 昭和49年
603 昭和49年
604 昭和49年
605 昭和49年
606 昭和49年
607 昭和49年
608 昭和49年
609 昭和49年
610 昭和49年
611 昭和49年
612 昭和49年
613 昭和49年
614 昭和49年
615 昭和49年
616 昭和49年
617 昭和49年
618 昭和49年
619 昭和49年
620 昭和49年
621 昭和49年
622 昭和49年
623 昭和49年
624 昭和49年
625 昭和49年
626 昭和49年
627 昭和49年
628 昭和49年
629 昭和49年
630 昭和49年
631 昭和49年
632 昭和49年
633 昭和49年
634 昭和49年
635 昭和49年
636 昭和49年
637 昭和49年
638 昭和49年
639 昭和49年
640 昭和49年
641 昭和49年
642 昭和49年
643 昭和49年
644 昭和49年
645 昭和49年
646 昭和49年
647 昭和49年
648 昭和49年
649 昭和49年
650 昭和49年
651 昭和49年
652 昭和49年
653 昭和49年
654 昭和49年
655 昭和49年
656 昭和49年
657 昭和49年
658 昭和49年
659 昭和49年
660 昭和49年
661 昭和49年
662 昭和49年
663 昭和49年
664 昭和49年
665 昭和49年
666 昭和49年
667 昭和49年
668 昭和49年
669 昭和49年
670 昭和49年
671 昭和49年
672 昭和49年
673 昭和49年
674 昭和49年
675 昭和49年
676 昭和49年
677 昭和49年
678 昭和49年
679 昭和49年
680 昭和49年
681 昭和49年
682 昭和49年
683 昭和49年
684 昭和49年
685 昭和49年
686 昭和49年
687 昭和49年
688 昭和49年
689 昭和49年
690 昭和49年
691 昭和49年
692 昭和49年
693 昭和49年
694 昭和49年
695 昭和49年
696 昭和49年
697 昭和49年
698 昭和49年
699 昭和49年
700 昭和49年
701 昭和49年
702 昭和49年
703 昭和49年
704 昭和49年
705 昭和49年
706 昭和49年
707 昭和49年
708 昭和49年
709 昭和49年
710 昭和49年
711 昭和49年
712 昭和49年
713 昭和49年
714 昭和49年
715 昭和49年
716 昭和49年
717 昭和49年
718 昭和49年
719 昭和49年
720 昭和49年
721 昭和49年
722 昭和49年
723 昭和49年
724 昭和49年
725 昭和49年
726 昭和49年
727 昭和49年
728 昭和49年
729 昭和49年
730 昭和49年
731 昭和49年
732 昭和49年
733 昭和49年
734 昭和49年
735 昭和49年
736 昭和49年
737 昭和49年
738 昭和49年
739 昭和49年
740 昭和49年
741 昭和49年
742 昭和49年
743 昭和49年
744 昭和49年
745 昭和49年
746 昭和49年
747 昭和49年
748 昭和49年
749 昭和49年
750 昭和49年
751 昭和49年
752 昭和49年
753 昭和49年
754 昭和49年
755 昭和49年
756 昭和49年
757 昭和49年
758 昭和49年
759 昭和49年
760 昭和49年
761 昭和49年
762 昭和49年
763 昭和49年
764 昭和49年
765 昭和49年
766 昭和49年
767 昭和49年
768 昭和49年
769 昭和49年
770 昭和49年
771 昭和49年
772 昭和49年
773 昭和49年
774 昭和49年
775 昭和49年
776 昭和49年
777 昭和49年
778 昭和49年
779 昭和49年
780 昭和49年
781 昭和49年
782 昭和49年
783 昭和49年
784 昭和49年
785 昭和49年
786 昭和49年
787 昭和49年
788 昭和49年
789 昭和49年
790 昭和49年
791 昭和49年
792 昭和49年
793 昭和49年
794 昭和49年
795 昭和49年
796 昭和49年
797 昭和49年
798 昭和49年
799 昭和49年
800 昭和49年
801 昭和49年
802 昭和49年
803 昭和49年
804 昭和49年
805 昭和49年
806 昭和49年
807 昭和49年
808 昭和49年
809 昭和49年
810 昭和49年
811 昭和49年
812 昭和49年
813 昭和49年
814 昭和49年
815 昭和49年
816 昭和49年
817 昭和49年
818 昭和49年
819 昭和49年
820 昭和49年
821 昭和49年
822 昭和49年
823 昭和49年
824 昭和49年
825 昭和49年
826 昭和49年
827 昭和49年
828 昭和49年
829 昭和49年
830 昭和49年
831 昭和49年
832 昭和49年
833 昭和49年
834 昭和49年
835 昭和49年
836 昭和49年
837 昭和49年
838 昭和49年
839 昭和49年
840 昭和49年
841 昭和49年
842 昭和49年
843 昭和49年
844 昭和49年
845 昭和49年
846 昭和49年
847 昭和49年
848 昭和49年
849 昭和49年
850 昭和49年
851 昭和49年
852 昭和49年
853 昭和49年
854 昭和49年
855 昭和49年
856 昭和49年
857 昭和49年
858 昭和49年
859 昭和49年
860 昭和49年
861 昭和49年
862 昭和49年
863 昭和49年
864 昭和49年
865 昭和49年
866 昭和49年
867 昭和49年
868 昭和49年
869 昭和49年
870 昭和49年
871 昭和49年
872 昭和49年
873 昭和49年
874 昭和49年
875 昭和49年
876 昭和49年
877 昭和49年
878 昭和49年
879 昭和49年
880 昭和49年
881 昭和49年
882 昭和49年
883 昭和49年
884 昭和49年
885 昭和49年
886 昭和49年
887 昭和49年
888 昭和49年
889 昭和49年
890 昭和49年
891 昭和49年
892 昭和49年
893 昭和49年
894 昭和49年
895 昭和49年
896 昭和49年
897 昭和49年
898 昭和49年
899 昭和49年
900 昭和49年
901 昭和49年
902 昭和49年
903 昭和49年
904 昭和49年
905 昭和49年
906 昭和49年
907 昭和49年
908 昭和49年
909 昭和49年
910 昭和49年
911 昭和49年
912 昭和49年
913 昭和49年
914 昭和49年
915 昭和49年
916 昭和49年
917 昭和49年
918 昭和49年
919 昭和49年
920 昭和49年
921 昭和49年
922 昭和49年
923 昭和49年
924 昭和49年
925 昭和49年
926 昭和49年
927 昭和49年
928 昭和49年
929 昭和49年
930 昭和49年
931 昭和49年
932 昭和49年
933 昭和49年
934 昭和49年
935 昭和49年
936 昭和49年
937 昭和49年
938 昭和49年
939 昭和49年
940 昭和49年
941 昭和49年
942 昭和49年
943 昭和49年
944 昭和49年
945 昭和49年
946 昭和49年
947 昭和49年
948 昭和49年
949 昭和49年
950 昭和49年
951 昭和49年
952 昭和49年
953 昭和49年
954 昭和49年
955 昭和49年
956 昭和49年
957 昭和49年
958 昭和49年
959 昭和49年
960 昭和49年
961 昭和49年
962 昭和49年
963 昭和49年
964 昭和49年
965 昭和49年
966 昭和49年
967 昭和49年
968 昭和49年
969 昭和49年
970 昭和49年
971 昭和49年
972 昭和49年
973 昭和49年
974 昭和49年
975 昭和49年
976 昭和49年
977 昭和49年
978 昭和49年
979 昭和49年
980 昭和49年
981 昭和49年
982 昭和49年
983 昭和49年
984 昭和49年
985 昭和49年
986 昭和49年
987 昭和49年
988 昭和49年
989 昭和49年
990 昭和49年
991 昭和49年
992 昭和49年
993 昭和49年
994 昭和49年
995 昭和49年
996 昭和49年
997 昭和49年
998 昭和49年
999 昭和49年
1000 昭和49年
1001 昭和49年
1002 昭和49年
1003 昭和49年
1004 昭和49年
1005 昭和49年
1006 昭和49年
1007 昭和49年
1008 昭和49年
1009 昭和49年
1010 昭和49年
1011 昭和49年
1012 昭和49年
1013 昭和49年
1014 昭和49年
1015 昭和49年
1016 昭和49年
1017 昭和49年
1018 昭和49年
1019 昭和49年
1020 昭和49年
1021 昭和49年
1022 昭和49年
1023 昭和49年
1024 昭和49年
1025 昭和49年
1026 昭和49年
1027 昭和49年
1028 昭和49年
1029 昭和49年
1030 昭和49年
1031 昭和49年
1032 昭和49年
1033 昭和49年
1034 昭和49年
1035 昭和49年
1036 昭和49年
1037 昭和49年
1038 昭和49年
1039 昭和49年
1040 昭和49年
1041 昭和49年
1042 昭和49年
1043 昭和49年
1044 昭和49年
1045 昭和49年
1046 昭和49年
1047 昭和49年
1048 昭和49年
1049 昭和49年
1050 昭和49年
1051 昭和49年
1052 昭和49年
1053 昭和49年
1054 昭和49年
1055 昭和49年
1056 昭和49年
1057 昭和49年
1058 昭和49年
1059 昭和49年
1060 昭和49年
1061 昭和49年
1062 昭和49年
1063 昭和49年
1064 昭和49年
1065 昭和49年
10

御注文は各書店へ

- | | | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|--------|------|
| 新譯佛教學典 | 釋雲照著 | 木津無庵著 | 聖典普會及大 | 1 1 |
| 2 仏教原論 | 根本仏教 | 山辺正治著 | 博文館 大 | 13 3 |
| 3 仏教經典を語る | 仏所行讚 | 大東出版昭 | 15 4 | |
| 4 般若上人の面目 | 蓮如上人の面目 | 池田卓然著 経典叢書 | 大 10 | |
| 5 飯沼龍遠上人 | 三帖合譜通釈 | 羽栗行道著 信仰と生活 | 昭 29 | |
| 6 禪の概説 | 道元禪記と行 | 高木俊一著 通俗講義 | 大 15 | |
| 7 正法眼藏 | 碧巖集講話 | 釋法藏撰釋 | 明 37 | |
| 8 新譯大品般若經 | 勝鬘經通解 | 勝鬘夷海撰 緑川文政 2 | 三、五〇〇〇 | |
| 9 極摩經義疏二冊摘要 | 維摩經義疏二冊摘要 | 大光寺昭 53 | 一、五〇〇〇 | |
| 10 加持祈禱奧伝 | 佐伯定胤著 森江書店 昭 14 | 一、五〇〇〇 | | |
| 11 心占法奧義 | 小野清秀著 史籍出版 昭 54 | 一、五〇〇〇 | | |
| 12 正法眼藏 | 本山版縮刷 | 山喜房昭 17 | 一、五〇〇〇 | |
| 13 新譯大品般若經 | 三晶鼎史著 甲子社 大 15 | 一、五〇〇〇 | | |
| 14 正法眼藏 | 易講話 | 秋野孝道著 昭 17 | 一、五〇〇〇 | |
| 15 正法眼藏 | 古易断時言 | 大同館 大 11 | 一、五〇〇〇 | |
| 16 稲葉家相手稿 | 古易象意秘解 | 弘道館 大 15 | 一、五〇〇〇 | |
| 17 方鑑大成三冊摘要 | 四冊摘要 | 六、五〇〇〇 | 一、五〇〇〇 | |
| 18 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 高瀬武次郎著 弘道館 大 15 | 一、五〇〇〇 | |
| 19 神仙真言幽冥秘錄 | 古易象意秘解 | 松原正整著 山城屋昭 14 | 一、五〇〇〇 | |
| 20 神仙真言幽冥秘錄 | 方位家相手稿 | 新井白蛾著 梶尾屋大 2 | 八、五〇〇〇 | |
| 21 宅方明鑒二冊摘要 | 心占法奧義 | 太和業洲著 大和易昭 8 | 三、五〇〇〇 | |
| 22 家相手百年眼 | 心占法奧義 | 平沢白翁著 梶只館弘化 2 | 五、五〇〇〇 | |
| 23 観相の秘訣 | 心占法奧義 | 尾島碩聞著 磯川堂 昭 21 | 四、五〇〇〇 | |
| 24 方鑑大成三冊摘要 | 方鑑大成三冊摘要 | 中司哲藏著 東陽堂 昭 19 | 三、五〇〇〇 | |
| 25 方鑑大成三冊摘要 | 方鑑大成三冊摘要 | 平沢白翁著 梶只館保 10 | 三、五〇〇〇 | |
| 26 方鑑大成三冊摘要 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 実業之日本 昭 10 | 一、五〇〇〇 | |
| 27 方鑑大成三冊摘要 | 方鑑大成三冊摘要 | 友清歡真著 天行居 昭 12 | 三、五〇〇〇 | |
| 28 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 実業之日本 昭 10 | 一、五〇〇〇 | |
| 29 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 古書屋 昭 9 | 八、五〇〇〇 | |
| 30 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 古書屋 昭 9 | 八、五〇〇〇 | |
| 31 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 古書屋 昭 9 | 八、五〇〇〇 | |
| 32 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 古書屋 昭 9 | 八、五〇〇〇 | |
| 33 方位家相手稿 | 方鑑大成三冊摘要 | 西勝造著 古書屋 昭 9 | 八、五〇〇〇 | |

三密堂書店

電話(○七五)三五一九六六一
振替京都三三四七一

萩書房

電話(〇七五)四三一十三七二
振替京都 八一一四三六

谷書店

電話(〇七五)三六一四七六九五
振替京都一一一七九

書

都三六

店

平600 京都市下京区寺町通伝光寺

京都市上京区烏丸通り上御靈前下ル

〒600 京都市下京区七条通堀川上

御注文は各書店へ

〒604 中京区丸太町通千本西入南側

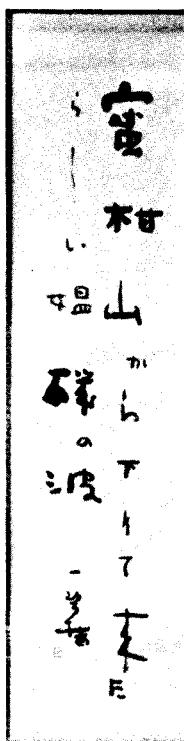
八木書店古書部

1 官令全書	下間式部郷筆	本願寺(本派)の領収書	江戸末	三、△△△
2 段氏説文解字註	13冊2帙	上海石印	民国15	五、△△△
3 菩薩戒本	虫(傷)	表裏欠	延宝5	三、△△△
4 伊勢朝熊岳絵図	黒摺一紙	上下小欠	天保3	二、△△△
5 玉錮物語	平玄道謹述	天保3	二、△△△	
6 美濃国石津郡境村	地券一枚	明10	明7~14	三、△△△
7 円光大師600年忌勅命御法事	御行列記絵入文化8	元治版	明10	三、△△△
8 信訪二尼問答	本門弘立講	日蓮宗	文久3	二、△△△
9 玉錮物語	平玄道謹述	天保3	二、△△△	
10 家藏大師流諸家遺墨目録	小笠圭三	昭12	二、△△△	
11 G B R A Q U E画集	限定期刊	元治版	明10	三、△△△
12 説法明眼論	円通述	寛永版	明10	二、△△△
13 林春隆原稿紙9枚	食味隨筆贊六百話(1)	文久2	二、△△△	
14 山内神奈筆原稿紙8枚	首人私	文久3	二、△△△	
15 高安月郊筆原稿紙6枚	大塙平八郎	昭5	二、△△△	
16 江馬務原稿紙8枚	幕末上方正月風俗	江戸未	三、△△△	
17 太宰実施門筆原稿紙8枚	義太夫淨瑠璃の問題	元禄11	二、△△△	
18 飯塚友一郎筆原稿紙7枚	上方文化研究の行者	嘉永5	二、△△△	
19 石田元季筆原稿紙4枚	墓は招く	天保13	二、△△△	
20 今井貫一筆原稿紙13枚	大坂町人学者の一面觀	嘉永5	二、△△△	
21 鎌田春雄筆原稿紙5枚	昭4	二、△△△		
22 花月亭九里丸筆原稿紙6枚	嫁入行列の東西屋	明28	二、△△△	
23 石川欣一筆原稿紙6枚	路地住ひ	天保13	二、△△△	
24 伊原青々園筆原稿紙7枚	疑問の竹田近江	明43	二、△△△	
25 檀原の遠祖	森下敬一	昭5	二、△△△	
26 血球の起原	藤村	昭5	二、△△△	
27 日本国倫理学史	三浦藤作	昭11	二、△△△	
28 渡辺新三郎	縮刷初版	大元	二、△△△	
29 由利英一	初版	昭5	二、△△△	
30 家秋香山人筆	明治初	大元	二、△△△	
31 革命及反革命	ラボリス・インターヴィエント二五(一五)	昭2	二、△△△	
32 一翼刊	正統2冊	明治2	二、△△△	
33 33 31 30	京都順覧記	都縦町小名花名所図等3冊	天保2	二、△△△
34 絵人フランス	ゴーラン	パリ刊(九三年)	明30	三、△△△
35 お伊勢さん	法鏡	松本整之亮	大正初	二、△△△
36 宝曆大雅書万万載	木版箱根現鑑記	芳員画	大正初	二、△△△
37 啓運録	駆重兵第16大隊内務細則	写本	明11	二、△△△
38 岩谷森逸郎	新々数学	鈴木城上山合著	明24	三、△△△
39 田峰次郎編	董眼筆	独吟癡句集5冊	明26	三、△△△
40 パリ刊(九三年)	西行法師	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
41 岐阜米甚筆	苔清水外一首	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
42 領收書一通	本版見立西行法師(沢村謙升芝居繪巻圖一枚)	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
43 小塚原淨土宗養願寺御歎17年狸親の仇物語木版	天保10	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
44 日蓮京都本山廻参詣案内一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
45 新潟県小学校教員免許状一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
46 新潟県小学校教員免許状一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
47 本版見立西行法師(沢村謙升芝居繪巻圖一枚)	西行法師	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
48 戒鑑錄天保鉄道中記并弘化大風記福井県堀川	苔清水外一首	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
49 伯州大守青山伯耆守系図	苔清水外一首	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
50 劍士内藤高治京大剣道師範	天保13	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
51 大野熊雄	大野熊雄	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
52 將某指観大成	天保15	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
53 冥想修理記事	天保15	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
54 日蓮宗本能寺織田信長公廟所	天保15	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
55 織田信長公廟所	天保15	新潟県小学校教員免許状一紙	明37	二、△△△
56 飯塚友一郎筆原稿紙7枚	虫入	明和5	二、△△△	
57 東京鳥追ひ	淨土宗本	明和5	二、△△△	
58 端唄長唄い古本一括	淨土宗本	明和5	二、△△△	
59 江州野州郡永原北村長沢家系譜	東京鳥追ひ	明和5	二、△△△	
60 井伊大老銅像鐵柵建設	端唄長唄い古本一括	明和5	二、△△△	
61 関スル指令并支払書	江州野州郡永原北村長沢家系譜	明和5	二、△△△	
62 明治本金剛寺本折戻豆供奉	嘉永5	明和5	二、△△△	
63 全国俳優大見立番附	嘉永6	明和5	二、△△△	
64 書家錦囊	嘉永6	明和5	二、△△△	
65 恩輝軒主人小伝	嘉永6	明和5	二、△△△	
66 川島織物社長	嘉永6	明和5	二、△△△	
67 法華神道足之巻	恩輝軒主人小伝	明和5	二、△△△	
68 上野顯妙院(日蓮宗まじない)	川島織物社長	明和5	二、△△△	
69 画鑒	元湯君載著	明和5	二、△△△	
70 創刊号法輪(淨土宗)大7	写本漢文山中商會久祇	明和5	二、△△△	
71 読歌古吉道の技折	江戸末	明和5	二、△△△	
72 草庵和歌集	各一冊	明和5	二、△△△	
73 詞正統2冊	古版	明和5	二、△△△	
74 寛政11	本居宣長元克纂	明和5	二、△△△	
75 大阪仕寄之図	寛政11	明和5	二、△△△	

76 京都順覧記	都縦町小名花名所図等3冊	天保2	二、△△△	
77 啓運録	村田峰次郎編	尊攘堂藏版	天保3	三、△△△
78 夢路の記	島本北洲著	銅版絵入非民序文	明30	三、△△△
79 田峰次郎著	鈴木城上山合著	鈴木城上山合著	明24	三、△△△
80 肉筆絶句集	鶯瓢選	鶯瓢選	明24	三、△△△
81 伝疑小史	幽人識	漢文原本	文化元	二、△△△
82 来月火消隱岐守様當番に付拙者儀云々状一通虫入	新々数学	新々数学	明24	三、△△△
83 丹波青木月斗筆	青木月斗筆	青木月斗筆	明24	三、△△△
84 高野山觀稚筆	高野山觀稚筆	高野山觀稚筆	明24	三、△△△
85 大石良雄筆書翰	大石良雄筆書翰	大石良雄筆書翰	明24	三、△△△
86 公遵筆	鐘馗之図	鐘馗之図	明24	三、△△△
87 清宣明筆	美鶴贊	美鶴贊	明24	三、△△△
88 宮物一紙	横物一紙	横物一紙	明24	三、△△△
89 寶曆大雅書万万載	宝曆大雅書万万載	宝曆大雅書万万載	明24	三、△△△
90 刊行司試験指導昭32	原風呂対訳トーキ英語	原風呂対訳トーキ英語	明24	三、△△△
91 審査官記念展観目録	於大阪三越	於大阪三越	明24	三、△△△
92 冠註觀心本尊釈探尋	河合日辰著末尾落丁明27	河合日辰著末尾落丁明27	明24	三、△△△
93 定跡話物棋大全	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
94 文化人の科学昭21コンバ昭21科学的株式投資	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
95 ホームメーリング昭35カイエドオル	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
96 デザイン自動車昭26唯物論研究昭33経済学雑誌	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
97 東洋経済別冊昭29E34技術日本	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
98 文化人の科学昭21コンバ昭21科学的株式投資	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
99 産業経済研究昭23ドリューム昭24哲學季刊	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
100 シマズ企業診断昭33経済学雑誌	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
101 自由報昭34リビングデザイン昭30科学画報	寺井南滝筆	寺井南滝筆	明24	三、△△△
102 崇教刊行司試験指導昭32	嘉靖19	嘉靖19	明24	三、△△△
103 豆画集	中国拓本	中国拓本	明24	三、△△△
104 正御経供	弘化5	弘化5	明24	三、△△△
105 掌中職原監要大成	弘化5	弘化5	明24	三、△△△
106 大豆代米見様人足賃割出様	文久3	文久3	明24	三、△△△
107 明治染見本帳	三井鉄司次雄文久3	三井鉄司次雄文久3	明24	三、△△△
108 蒲生内守筆弓術等懸之事口傳書一卷	文久3	文久3	明24	三、△△△
109 六字名号	寛正4	寛正4	明24	三、△△△
110 舟中夷道中詩一紙	二、△△△	二、△△△	明24	三、△△△
111 大阪仕寄之図	一幅	一幅	明24	三、△△△
112 舞州齊筆	小品	小品	明24	三、△△△

文藻堂 〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル
電話(075-231-1914) 振替 京都8-615

蜜柑山から下りて来たらしい雄磯の波
一碧樓前



5 中塚一碧樓

俳句幅

絹表装桐箱入本紙 33×133

美 八〇,〇〇〇円



3 長田幹彦

色紙

美 三五,〇〇〇円

春寒の花見小路は灯しけり
幹彦

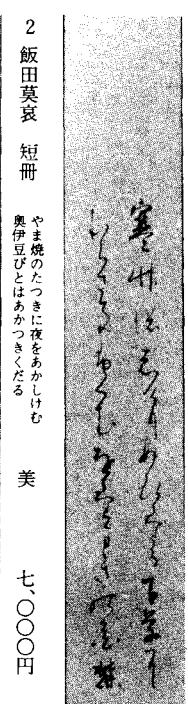


2 飯田莫表

色紙

美 七,〇〇〇円

やまと燒けたつまに夜をあかしけむ
伊豆ひとはあがつくるだる



1 岡麓

短冊

美 二三五,〇〇〇円

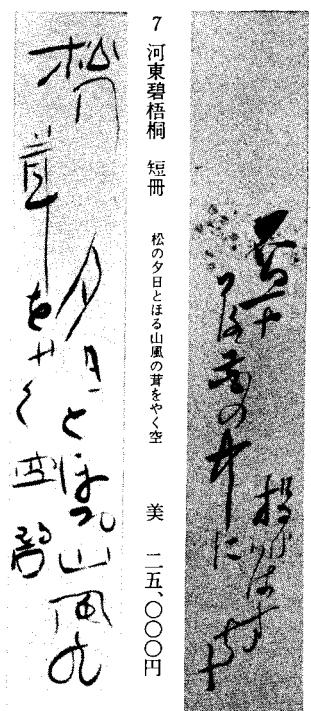
寒竹のしげりあひたる下草に
むらさきふくむをだまきの花に

6 岡野知十

短冊

○ や落花の中に投げかはす

美 一二一,〇〇〇円



7 河東碧梧桐

短冊

松の夕日とほる山風の音をやく空

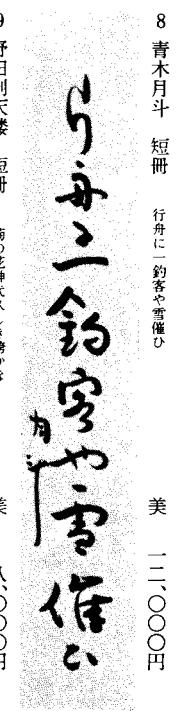
美 一二一,〇〇〇円

8 青木月斗

短冊

行舟に一釣客や雪僅ひ

美 一二一,〇〇〇円

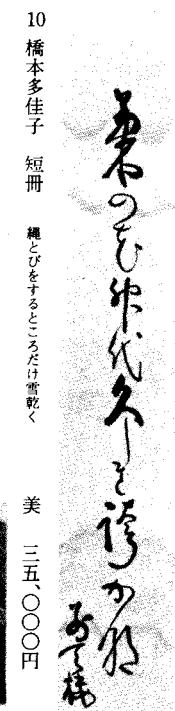


9 野田別天楼

短冊

菊の花神代久しき誇かな

美 八,〇〇〇円



10 橋本多佳子

短冊

織こんびをするところだけ雪乾く

美 三五,〇〇〇円



11 阿波野青畠

短冊

一花や洞然として福寿草

美 一〇,〇〇〇円



12 長谷川かな女

短冊

海の上の島のうら島は木の芽吹く

折れ有八,〇〇〇円

八木絵馬 短冊 揚羽出で瀬のひかりにさそはる 美 五,〇〇〇円



国芳画 木曾街道六十九次

全71枚揃 一帳

¥3,300,000

江戸日本橋より、木曾街道を京へ伝説と怪奇談の幻想画 オリジナル大揃い

大元
604

京都市中京区寺町通錦上ル

電話 (〇七五) 二二二一〇六八五
振替 京都 三一六五

書

堂

二
604

(朝日会館前)

電話(〇七五)二三一-一七六三四
振替京都一七六四〇

食欲の秋・味覚隨筆特集	1 食通 創刊号～5年9号 不揃 10冊	昭8.9.6、500	
2 趣味と実益「食道楽」6年1、2号	2冊 昭7 二、000		
3 月刊「あまから」33.8.10～34.11.15 初版分(内、後次) 174冊	昭27～43 三、000		
4 季刊「甘辛春秋」前編第24号 内、後次 23冊	昭43～48 六、500		
5 楽味 昭41.11月号～昭48.3月号(欠号有) 36冊	昭27～43 三、000	七、000	
6 鮨全国業界誌「寿」(本) 3月号(分) 27号(分) 34冊(3冊合併)	昭27～33 三、000	七、000	
7 新潟月刊味覚誌「うまいもの」(欠号有) 33冊 昭34～37 三、000	昭27～33 三、000	四八八〇	
8 名古屋月刊味覚誌「食道樂」(本) 22号(分) 25号(分) 昭29～32 三、500	昭29～32 三、500	五〇〇〇	
9 食道樂(増補註釈) 村井弦齋	報知社 明38 一、000		
10 美味求真	木下謙次郎 初版 啓成社 大14 一〇,000		
11 滋味風土記	魚谷常吉 初版 秋豊園 昭10 三、500		
精進料理	精進料理 春夏秋冬・料理王國 北大路魯山人 初函	昭35～37 三、500	
味覚極華一聞き茶	味覚極華一聞き茶 子母澤寛 初函	昭35～37 三、500	
食味	隨筆食味の真髓 多田鉄之助 初版 萬里闊	昭35～37 三、500	
味の散歩	蕎麦漫遊 菊池正義 初版 現代食潮社 昭11 四八〇		
舌	魚谷常吉 初版 秋豊園 昭11 四八〇		
料理のコツ	秋山徳藏 初版 北辰堂 昭32 三、000		
料理心得帳	函 婦人画報社 住吉書院 昭30 三三、五〇〇		
現代豆腐百珍	函 ダヴィット社 東都書房 昭26 二、500		
たべもの・味の百科	函 文新社 昭33 二、500		
味	函 有紀書房 昭35 二、500		
舌	函 日経新聞社 昭49 47 37 36 二、500		
料理のコツ	初版 東西文明社 昭30 一、八〇〇		
包丁控	初版 小島政二郎編 昭33 一、八〇〇		
現代豆腐百珍	初版 六月社 昭34 34 二、五千		
たべもの・味の百科	初版 隨筆甘辛抄 昭32 一、五千		
味	初版 隨筆あまかメラ 昭32 一、五千		
味の散歩	初函		
舌			
料理のコツ			
包丁控			
現代豆腐百珍			
たべもの・味の百科			
味			
味の散歩			

A 3判・四方帙入付巻和綴巻帙入 定価十九万八阡円

酒井抱一画集

付巻・抱一上人真蹟鏡二冊 鶯邨画譜一冊

本書は昭和十五年東京美術俱楽部で開かれた没後百年大展覽会に出陳された華山の代表作を特写、これを編纂したものである。付冊「華山を語る」(講演集)

B 4判・変型函入 上下二巻 極価八万五阡円

渡辺華山錦心図譜

編纂代表 鈴木栄之亮

上古から漢魏六朝、唐代
また日本・朝鮮の著名石
刻を加えた四七〇余種。
六〇〇余図を集大成。今
日では伝説的存在である
昭和十四年版に新たに詳
細な解説を付し、原本全
四冊を合本復刻。書道家
研究者必携の大巻!!

豪華豪華版 定価六万五阡円

河井荃蘆監修 藤原楚水纂輯
篆楷字典

太甫熙永編「八書通」「正字通」「康
熙字典」等を典拠に「篆・小篆・籀
文・篆籀字典」を網羅。

八〇〇〇円

丘裏二著「判説が難しい篆を楷書
でわかりやすく説めるよう」編んだ篆
書解説字典。

五〇〇〇円

増富良宇卓石圖

国書刊行会

*注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。
〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 電話03(917)8287

思わぬ出費!

その様な時、御利用下さい。

- ・出町店・京都市上京区河原町今出川上る
☎ 231-7711番
- ・衣笠店・北区西大路通り平野神社北隣
☎ 462-3371番

Z ENSHOD
本専門の質屋
善書堂

訓註 禅林句集

柴山全慶老師輯
定価1,500円送料250円

佛教書取り揃えております
葉書にて御照会下さい。

其中堂 振替京都538
TEL.231-2971
〒604 京都市中京区寺町通三条北

思文閣学叢書

刊

能勢朝次著作集 全十卷

能勢朝次著作集編委員会編

能勢朝次の大成者阿弥について最も基礎的な考え方を捉え、連歌・俳諧・芭蕉に関する研究をなした著者の論考を全十巻の著作集として刊行。

第六回配本6

能楽研究 (三)

▼ A5判・四五〇頁/定価六、六〇〇円
*全巻予約特価六、三〇〇円

新中國戯曲善本三種

神田喜一郎監修
秀夫解説

幕末の日記「人間現事備忘」を中心に、詩文、隨筆、書簡まで全て網羅。幕末の各方面の動きを知る生きた一大史料集。その詩は詩魂才兼備し、生前詩壇の射鵰手と称され、歿後、『金曲園』は「東國詩人之冠」の位置を贈った旭莊の全集。

北西廂記・断髪記・竊符記

定価一三、八〇〇円

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
能連歌舞研究 (三) (最新刊)									
能樂研究 (二) (既刊)									
能樂研究 (二) (第七回)									
能樂研究 (二) (第八回)									
能樂研究 (二) (第九回)									
能樂研究 (二) (既刊)									
能連歌舞研究 (二) (既刊)									
能樂研究 (二) (既刊)									
能樂研究 (二) (既刊)									

対外関係と文化交流

中世民衆生活史の研究

田中健夫著 (東京大学教授) 主として、我国中世を舞台に展開した対中國・朝鮮・琉球との関係、及び近世をも含めた国際文化交流上の諸問題を探る。「概略」、中世日本と東アジアの海対馬史の諸問題と文化交流史点描、中世日本と日本の海賊、宇治茶の普及、他) 史料二篇

* A5判・四四〇頁・索引付 定価六、八〇〇円

三浦圭一著 (立命館大学教授)
絶賛重版 学界誌、新聞等にて高い評価を得た労作。
定価六、八〇〇円

本社 京都市左京区田中関町2-7
〒605 (075) 751-1781

思文閣出版

支社 東京都千代田区三崎町2-20
〒101 (03) 263-6348

齋藤 忠編 —— 五十七年十一月刊 ——

日本古墳文化資料綜覽 全一冊

■ B5判・本文10ボ、9ボ使用・総四五六頁・上製箱入 定価一二、〇〇〇円

本書は昭和二十八年から三十一年にかけて吉川弘文館より三分冊の勝手版で限定刊行されたものの改訂新版である。収録内容は明治初年より昭和二十六年までを対象とした関係資料を整理されたもので、第一部は「文献目録」、第二部は「主要遺跡地名表」、第三部を「主要遺物名表」として、原型に添つた編成がとられている。

初版が発刊された直後、昭和二十八年の市町村合併促進法の施行とともになって、当時の市町村名は今日までに著しく変貌した。

この新版では特に第一部、第二部の地名については改めて一つ一つ検討され、現行の地名と対比しつつ改名されたものをも記入されている。同時にすべてに亘って初版での誤謬の訂正がなされ、しかも今回の活版による抜覧の便は利用者にとって倍旧の価値ある総覽に新されている。日本古墳文化研究に必備の書。

京都国立博物館編 既刊発売中

富雄丸山古墳・西宮山古墳出土遺物 全一冊

■ A4判・原色図版四枚・コロタイプ図版五四頁・解説八四頁・上製箱入 定価八、七〇〇円

両古墳の出土遺物は、京都国立博物館で所蔵される四世紀および六世紀の古墳出土品を代表する一括遺物である。

富雄丸山古墳は、奈良盆地の西北部にあって四世紀代に築造された大円墳である。とりわけ発掘された各種の石製模造品はその種類・量とも極めて多様で古墳出土の石製模造品の代表的なものとして重文に指定されている。

西宮山古墳は、兵庫県竜野市にあつた古墳で、前方後円墳である。出土品の数量とも多く、六世紀を代表する一括遺物としても資料的価値は高い。なかでも新羅地域との関連を示す胡鏡金具、或は大形器台を多数含む須恵群の出土品は古墳時代の被葬者および葬制を知るうえでも重要な資料である。

臨川書店 本社 京都市左京区今出川通川端東入50M
東京支店 102千代田区飯田橋四一七一六号ビル
03-075-2634320
03-075-2634320